

JAAF
アナウンサーのしおり
(2021年改訂)

公益財団法人 日本陸上競技連盟
競技運営委員会

はじめに

陸上競技のアナウンサーに最も求められるものは、競技者・観衆・競技役員が必要としている情報を正確に、タイムリーに伝える技量である。滞りなく、流ちょうに話すことは大切ではあるが、まず、「伝える」という意識を高く持つことが必要である。

事前に調べたことをすべて話そうとして競技に支障が出たり、自身のパフォーマンスのためにマイクに向かったり、競技会を盛り上げようとするあまり絶叫するというようなことは、競技会アナウンサーとしての自覚に欠け、あってはならない。

昨今の大規模競技会では、オーソドックスなアナウンスから離れて、観衆を強く意識した内容や話し方を求められる場面も出てきている。そうした競技会でのアナウンサーは、EPM(イベント・プレゼンテーション・マネージャー)を中心としたEPチーム(イベント・プレゼント・チーム)の一員としての役割を担うようになった。

一方で、国内のほとんどの競技会は、タイトなスケジュールで運営人員も少なく、アナウンサーも手薄なため、ともすれば競技者の紹介すらままならないこともある。

どちらの競技会でも共通していることは、「伝える」という意識なしではアナウンサーとしての役割を果たすことはできないということである。

今、何の情報を提供するべきか、その場その場に応じて的確に判断し、正確に「伝える」ための指針となるべく、このしおりを編集した。

2021年7月

公益財団法人 日本陸上競技連盟

競技運営委員会

目 次

I 序

1 競技会とアナウンサー	1
2 アナウンサーの役割	1
3 アナウンサーとしての心構え	2
4 アナウンサーとしての資質	2

II 基本編

1 アナウンサーの基本的任務	4
2 アナウンス上の心得	6
3 アナウンスの用語	7
4 アナウンスの練習方法	10
5 競技会に臨むための準備	10
6 初心者が特に注意すべきこと	11
7 アナウンス以外に身につけたい技術	12
8 トラック競技偏重を避けるために	12
9 アナウンサーの編成と分担	13
10 アナウンス内容の取捨選択	13

III 実践編

■ トラック競技

1 全般的な留意事項	15
2 紹 介	15
3 不正スタート・スタートのやり直し	21
4 途中経過・描写等	22
5 途中時間	22
6 フィニッシュ	24
7 成績発表	25
8 ライブリザルト表示を活用したフィニッシュと成績発表	30

■ フィールド競技

1 全般的な留意事項	33
2 紹 介	33
3 途中経過・描写等	34
4 競技終了	39
5 成績発表	41

■ 混成競技

1 全般的な留意事項	46
2 紹介	46
3 途中経過・描写等	47
4 成績発表	48

■ 競歩競技

1 全般的な留意事項	50
2 スタート前の紹介等	51
3 途中経過・描写等	51
4 成績発表	52

■ 道路競技

1 全般的な留意事項	53
2 スタート前の紹介等	53
3 途中経過・描写等	56
4 成績発表	56

■ 表彰・式典

1 共通事項	57
2 表彰	58
3 式典	59

■ その他のアナウンス

1 アナウンス要領	60
-----------	----

IV 研究編

1 競技会の規模や性格に応じたアナウンスのあり方	63
2 競技会のディレクターとしてのアナウンサーの役割	65
3 競技場の設備環境に応じた工夫	66
4 競技会を盛り上げるために	67
5 フィールド競技の描写を充実させるために	68

【参考】 イベント・プレゼンテーション・マネージャー	70
----------------------------	----

【付録】

1 第105回 日本陸上競技選手権大会（2021年大阪）申合わせ事項	72
2 女子円盤投げの種目紹介原稿（例）	75
3 箇条書きスタイルの種目紹介原稿（メモ）	75
4 ラップタイム換算表	77

I 序

1 競技会とアナウンサー

「陸上競技会」に関し、日本陸上競技連盟が公認する競技会の成立要件は主催者に係わることに加え、以下のように定められている。

【公認競技会規程（抜粋）】

- 第5条 公認競技会には、本連盟登録会員規程に定める**登録会員のみが競技者**として参加できる。
- 第6条 公認競技会は、**本連盟競技規則に基づいて行われるものとする。**
- 第7条 公認競技会は、本連盟の公認に関する諸規定に合致した**陸上競技場、室内陸上競技場、長距離競走路及び競歩路**で行うものとする。
- 第8条 公認競技会の**審判員は、補助員を除きすべて公認審判員**であること。

競技会は競技規則に則って行われるのが大前提だが、次のように考えることもできる。

- (1) 競技者にとっては勝負の場であり、記録に挑戦する公式の場である。
- (2) 競技役員にとっては審判技量を発揮し、競技者の挑戦に応える場である。
- (3) 観衆にとっては記録に挑戦する競技者を応援し、競技者の動きや記録に共感する場である。

陸上競技会におけるアナウンサーは単に競技規則に定められたことを行うだけでなく、競技者・競技役員・観衆、全ての関係者を念頭に、何が求められているのか、果たすべき役割は何かをよく考えながらマイクに向かう必要がある。

2 アナウンサーの役割

アナウンサーの任務は、競技規則CR38に以下のように定められている。

アナウンサーは、観衆に対して各種目の参加競技者の氏名、（必要に応じて）ナンバー、組、抽選で決まったレーン順あるいは試技順及び途中時間等の情報を知らせなくてはならない。各種目の結果（順位、時間、高さ、距離、得点）は、情報を受け取ったならば、できるだけ早く発表する。

これらはアナウンサーの基本的な任務であるが、競技規則や見所の解説、描写によって観衆に興味を抱かせ、競技者と観衆が一体感をもてるように、競技会の司会者的な役割やEP（イベント・プレゼンテーション）の一端を担うことも求められている。

3 アナウンサーとしての心構え

- (1) 記録を明確に伝達する。情報を音声（ことば）によつて的確に伝達することが基本である。基礎・基本がしっかりしていなければ、伝えたいことがきちん伝わらない。
- (2) 音声（ことば）には人柄が出る。話し方のテクニックの習得も大切だが、それだけを追い求めて心がこもっていなければ意味がない。
- (3) わかりやすく伝えることができるように、常に話し方・読み方の研鑽を積むことを心がける。味わい深いふるさとのことばも大事にしたい。
- (4) アナウンサー以外の審判の経験も積み重ねる。各種の経験が陸上競技への理解を深め、自信や実力となって、ことばに現れる。
- (5) 競技規則、記録等に興味・関心を持ち、理解し、情報収集に努める。
- (6) 競技会に臨む際には、体調を十分に整えておく。体調が不十分では、ことばの響きを感じられない。「生き生きした声、張りのある声」を意識する。
- (7) 「公認審判員としてのアナウンサー」であることを自覚し、競技会全体を客観的に見るよう心がける。
- (8) 自分のことば・喋りに酔わない。感情を入れすぎない。主役は競技者であつて、アナウンサーではない。
- (9) 「静寂」が競技を引き立てることもある。あえてコメントを入れず、競技を見せることも時には必要である。

4 アナウンサーとしての資質

- (1) 良い審判員であること
 - ① 審判員としてアナウンサー以外の部署でも十分に経験を積む
 - ・最初からアナウンサーのみに専従するのは好ましくなく、B級の間にいるいろな部署を経験しながら、アナウンサーを目指すのが望ましい。
 - ・他部署を経験することで「ルール」や「競技の流れ」について理解を深め、競技者に近くで接することを通して競技者の競技中の心理状態を理解したり、他部署からアナウンサーを客観的に捉えることによって、奥行のあるアナウンスにつなげることができる。
 - ② 競技規則、選手のプロフィール、記録など陸上競技事情に通じている
 - ・競技規則全般の他、競技会運営にも通じている。
 - ・競技会に出場している主な選手の記録はもとより、世界記録や日本記録、学生記録等にも精通している。
 - ・開催されている競技会の歴史や性格、位置付けなども理解している。上位大会への選考会では、選考条件（標準記録）等を確認している。
 - ③ 競技者としての経験もあると、なおよい
 - ・競技者の苦労や考え、精神状態がよくわかる。

(2) 標準のことば（全国共通のことば）を使えること

① 音声の良否

- ・高すぎない。低すぎない。速すぎない。遅すぎない。大きすぎない。弱々しくない。
- ・唇が動かない。ハッキリしない。こもって陰気、鼻にかかる、深味がなくて軽い、濁って鈍重、ふくらみがなく貧弱、力んで粗野、紋切り型で事務的ではいけない、極度な抑揚をつけすぎない。
- ・音声聞き取りやすい。

② 発音・イントネーションの正しさ

- ・普段から標準の発音やイントネーションの訓練をしておくといいが、それを意識するあまり、口ごもってしまうのは本末転倒。
- ・とくに国体などでは、郷土特色を活かした話しことばを効果的に用いることで、大会を盛り上げることにもつながる。

II 基本編

1 アナウンサーの基本的任務

(1) 競技規則CR38 (以下「競技規則」省略)

- ① 各種目の参加者、(必要ならば)ナンバー、所属、レーン、跳躍・投てき順の紹介発表
- ② 途中経過等競技に関する情報の発表
- ③ 各種目結果の発表

〔注〕 i 紹介や結果の発表にあたっては、トラック競技のスタート、フィールド競技の試技に悪影響を及ぼさないようタイミングに留意する。

ii 結果発表は記録情報から受け取ったら(PCでの情報入手を含む)、できるだけ早く、わかりやすく発表する。トラック競技の結果発表は、次の組の紹介前に終了するように努力する。フィールド競技の結果発表も後回しにしない。また、正式結果はアナウンスか、スクリーン(電光掲示板)掲示か、紙での掲示か、ネット配信なのか等を総務や記録・情報処理員に確認し、適宜案内をする。

iii 競技会運用システム(以下、システム)を採用する大会では、PCの画面を見ながら速やかにアナウンスする。

(2) 総務の指示事項並びに一般アナウンス事項

- ① CR38に準拠する内容以外で総務から指示された事項
 - ・ 競技会開始前の時刻の規正
 - ・ 気象状況の定時アナウンス
 - ・ 表彰時のアナウンス
 - ・ 役員、競技者への伝達
 - ・ 競技運営上必要な観衆への指示、伝達
- ② 総務の承認と指示のもとにアナウンスする事項
 - ・ 競技に関係のない呼び出し等

(3) 特に留意を要する競技規則

- ① 全般
 - ・ CR25.1 記録の流れ
 - ・ CR25.4 スタートリストや結果に用いられる略号
 - ・ CR32~35 世界記録が公認される種目
 - ・ CR37.10~15 日本記録が公認される種目
 - ・ TR3.1 年齢区分
 - ・ TR4.3 同時申し込み時の試技順の変更
 - ・ TR5 服装、競技用靴、アスリートビブス
 - ・ TR6 助力
 - ・ TR8.2 抗議に対する措置、結果発表のアナウンス時刻の記入
 - ・ TR9 男女混合の競技
- ② トラック競技
 - ・ TR14 トラックの計測

- TR16.5 スタートの中止
- .6~8 不正スタート
- .9 不正スタート時の出発係の動き
- TR17.1 走る方向
- .3~4 レーン侵害行為
- .5.1 ブレイクライン
- .5.2 長距離走の階段式スタート
- .9,12,13 風力測定
- .14 途中時間の表示
- TR19.3 途中計時
 - 800mと1500mのレース=1周ごとの時間
 - 3000m以上のレース=1000mごとの時間
 - 計時の単位、記録の発表方法
 - .10 手動計時、
 - .23 写真判定
 - .24 トランスポンダー
- TR20 トラック競技におけるラウンドの通過
- TR21 トラック競技の同成績
- TR23 障害物競走の距離や水濠位置の違いによる途中距離
ポイントの移動
- TR24.1 リレーの標準距離
 - .6 バトンの扱い
 - .7 バトンの受け渡し
 - .12~21 レーンの使い方
- ③ フィールド競技
 - TR25.5~6 試技順と試技
 - .9~16 フィールド競技の予選
 - .17 試技時間
 - .21 競技成績
 - .22 同成績
 - TR26.2 試技
 - .8 順位
 - .9 ジャンプオフ
 - TR29.8~9 距離計測
 - .10,12 風力測定
 - TR32.1~3 公式用器具 (TR28.11 棒高跳用ポール)
 - .19~20 投てき競技の計測
- ④ 混成競技
 - TR39.1~5 混成競技の種目と競技順
 - .7 混成競技の試技順、組み合わせ
 - .8 単独種目との相違点 (試技数、不正スタート)
 - .10 途中棄権
 - .11 得点発表

- .13 同得点
 - ・〔国内〕中学・高校の競技
 - ・「混成競技採点表」
- ⑤ 競歩競技
 - ・TR54.2 競歩の定義
 - .4 競歩審判員主任の権限
 - .5～7 イエローパドル、レッドカード、失格
 - .7.3 ペナルティゾーン
 - .7.7 掲示板

2 アナウンス上の心得

- (1) 落ち着いて、あわてず、あせらず、口に物を入れず・含まず、マイクに正対し、感度を十分考えて。
- (2) 生き生きとした、張りのある声で。
- (3) マイクとの距離・マイクの角度で聞こえ方が全く異なる。声を張り上げることなく、よく聞こえるように調整する。
- (4) 話すスピード・間のとり方に留意。
- (5) 陸上競技で最も大事な情報である数字は、語尾を若干あげて明瞭に。
- (6) 暗いイメージ、雰囲気をおそろしいようなイメージの言葉は避ける（不快なイメージのない言葉の選択）。
- (7) 結果（リザルト）発表や描写は、トラック競技（特にスタート時）やフィールド競技の試技に支障のないように。
- (8) 結果の内容（ページ、順位、風速等）をよく確かめて。
- (9) アナウンスが終わった原稿にはアナウンス済みのチェックをし、アナウンス時刻及びアナウンサー名を必ず記入（抗議に対する措置）。PCを使用する場合は、手許のプログラムや進行管理表に記入。
- (10) 読みにくい文字、判読しにくい人名、地名、所属名等は事前に確認（事前にプログラムを入手するとよい。出発係に無線で確認依頼をすることも）。
- (11) 紹介時にスタートリストが届いていない場合の対応方法を考えておく（双眼鏡で出場者のナンバー確認、無線で競技者係や出発係に問い合わせる等）。
- (12) 雨天、荒天、炎天時には、アナウンスのために競技者を待たせない。
- (13) 本来の任務（紹介、描写、結果発表、式典、表彰等）以外のアナウンスは、総務の承認を得る。
- (14) テレビやラジオの実況放送アナウンサーのような絶叫調のアナウンスにならない。
- (15) 起語と結語をはっきりさせる。

3 アナウンスの用語

- (1) 原則は、男子は「君」、女子は「さん」。
 一方で、外国選手が出場する競技会や、日本選手権・グランプリシリーズなどの特殊な大規模競技会では敬称をつけないことが多い。また、場面に応じて「〇〇選手」の使い分けをする。海外競技会では敬称はつけていないこともあり、国内大会でもテレビ中継が入る場合、敬称はつけていないことが多い。主催者の意向や方針に合わせて柔軟に対応できるようにする。【付録1参照】

- (2) 種目名
 テレビやラジオでの言い方とは異なる点に注意する。

	誤	正
100m 800m	100 メーター 800 メーター	100 メートル競走 800 メートル競走 ※「競走」を省略することもある
110mH	110 メーター ハードル競走	110 メートル ハードル
3000m S C	3000 メーター障害物競走 ステイプル チェイス	3000 メートル障害
5000mW	5000 メーター ウォーク 5000m ウォーキング レース	5000 メートル競歩
4×100mR	4 カケル 100 メーター リレー	400 メートル リレー
4×400mR	4 カケル 400 メーター リレー	1600 メートル リレー
100m+200m +300m+400mR	スウェーデン リレー	メドレー リレー

※トラック種目で距離を示す数字の種目は「競走」競技であることは明らかであり、ハードル・障害物・リレー・競歩以外の種目には「競走」をつけなくても伝わることから、省略することもある。

- ・カテゴリーを細分化しないで実施する競技（男女別のみ）
 【性別＋種目】 男子棒高跳、女子10000m
- ・カテゴリーを細分化して実施する種目
 【カテゴリー＋性別＋種目】 少年A男子100m、中学1年女子走幅跳
 対校男子800m、オープン女子砲丸投

- (3) 数字の読み方

	誤	正
0	ゼロ（英語）	レイ（日本語）
4	シ（聞き取りにくい）	ヨン
7	シチ（1「イチ」と区別しにくい）	ナナ
8	ハッ（聞き取りにくい）	ハチ

- (4) 紹介

- ① 「10時から競技が開始されます」（時間に関して「より」は使わない。「より」は比較等の意味で使う）。

- ② スクリーンや、携帯サイト、webサイト等に掲載されることや、時間短縮の観点から「ナンバー（番号）」を省略するケースが増えている。
- ③ 短距離走の場合、紹介時には「第1レーン～」（「第」を冠した方が響きが良いが、予選やレース中の描写、結果発表では省いてメリハリをつける）。
- ④ レーンを使用しないで行われる中長距離走の場合、「レーン」「オーダー」とは言わない。そもそも概念がない。
- ⑤ フィールド競技の場合、「第1跳躍者」「第1投てき者」とは言わない。

(5) 記録の読み方

① 時間

- ・原則として、日常生活で使っている時間や数字の読み方・言い方をする。
 例) 5分03秒 : ○「ご ふん さん びょう」
 ×「ご ふん れい さん びょう」
- ・表記と読み方は必ずしも一致させる必要はない。
 ラップタイム：通常、競技者は90秒前後までは「秒単位」で認識していることが多いため、例えば「1分12秒13」は、アナウンスでは「72秒13」でよい。
 結果発表 : 400mや400mHなどの結果発表では、記録情報処理は「1.12.13」のように表すが、これを「1分12秒13」と読むか「72秒13」と読むかはどちらでもよい。当該競技会のアナウンサー全員で統一する。
- ・電気計時の秒未満の数字は一文字一文字で読む。
 例) 10秒22……「にじゅうに」ではなく、「にいいい」と読む。
- ・十秒、十分の単位が「0」の場合
 例) 2分05秒27……十秒の単位を「れい5秒」とは言わず、分と秒の間に「一呼吸」入れて「5秒」と言う。
 例) 2分00秒00……秒の単位は「れい・れい」秒ではなく「れい」秒。
 秒単位未満は「れい・れい」と言う。
 例) 2時間01分06秒……分の単位を「れい1分」とは言わず、
 時間と分の上に「一呼吸」入れて「1分」、
 秒の単位を「れい6秒」とは言わず「6秒」と言う。

② 距離や高さ

- ・「m未満」の十の位が「0」の場合
 例) 2m03……「2mれい3」とは言わず、
 「2m」の後に「一呼吸」入れて、「3」と言う（言い切る）。
 例) 2m00……「2mれい・れい」「2mちょうど」とは言わず、
 「2m」と言う（言い切り、一呼吸おいて次の言葉を発する）。

(6) 項目名・順位等

① 競技等による項目名等の使い分け

- ・トラック競技……「着」「時間」
- ・フィールド競技……「等」「記録」
- ・混成競技……（トラック競技） 「時間」「得点」
 （フィールド競技） 「記録」「得点」

- (総合成績) 「第〇位」 「得点」
・複数組で行われた場合の総合順位や表彰…… 「第〇位」

(7) 風向風力

- ① 競技中の風の状態… 「向い風 (むかいかぜ) 」 「追い風」
・ 「プラス (マイナス) の風」 とは言わない。
・ 「+1.0」 は 「追い風1メートル」
・ 「-0.9」 は 「向い風0.9メートル」
・ 「±0.0」 は 「風はありませんでした」
・ 「この時、追い風…」 の 「この時」 は言わない。(10)①も参照。
〔注〕100m競走や走幅跳のように、記録の公認に風向風力の条件が必要な競技についての情報であり、グラウンド・コンディションでの風の情報とは位置付けが異なる。

(8) 途中経過・描写

- ① 「負けている」「遅れている」等の形容は避け、「先頭(トップ)」「続いて」「2番目・3番目」等の言い回しを心がける。「2番手」「3番手」の形容は避ける。「番手」は、元々は糸の太さを表す単位であり、競馬や競輪のテレビ・ラジオ中継では用いるが、陸上競技のアナウンスでは使わない。
② 「失敗した」「諦めた」等の否定的な意味の強い形容も控える。「クリアできなかった」「赤い旗が上がって」「残念ながら欠場」「途中で競技をやめている」等の言い回しを工夫する。

(9) 結果発表

- ① 「時間」「記録」「得点」などの項目名は最初の一人だけにつける。
② スクリーン(電光掲示板)を利用する場合は「ページ番号」を省略してもよいが、使用しない競技会では「ページ番号」もアナウンスする方が親切。

(10) 重複言葉を避ける

- ① 「この時の風は追い風1.1mでした」 → 「追い風1.1mでした」
「この時」は言わない
② 「先頭はA君、続いてB君、C君と続きます」
→ 「先頭はA君、続いてB君、C君です」

(11) 「時間の流れ」を示す用語の使い分け

「先ほど終了した」「ただいま終了した」「ただいま行われている」「この後行われる」「間もなく行われる」

(12) 「書き言葉」ではなく「話し言葉」を使い、わかりやすい表現を心がける。

(13) 流行語や使用する世代が偏った言葉は使わない。

- ① 「わりかし」「すごい」「やばい」「カッコいい」等
② 平板型発音
③ 半疑問(「語尾上げ」)

(14) 使ってはいけない言葉

- ① 不適切な用語(差別語)
② 具体的商品名(スポンサー保護の観点から)

・遺失物の連絡で、「〇〇社製、青の26cmのスパイク」等の表現は可

(15) 機器・器具名称・設備名称

- ① 陸上競技で使用する機器・用器具名称を正しく理解する。（基本的にはルールの条文で使われている名称を使用。「陸上競技場公認に関する細則」も参照）
- ② 設備名の言い方を当日のアナウンスチーム内で統一する。
例）電光掲示板かスクリーンか、スコアボード・ビデオボードか

4 アナウンスの練習方法

- (1) 『習うより慣れろ』。「しおり」を読むだけでなく、より多くの実践が必要。
- (2) 多くの競技会で経験を積んだベテランのアナウンスをよく聴く。「聴いた内容を自分が実践してみる」あるいは、「参考になるアナウンス内容をメモする」といった積み重ねが必要。
- (3) 現場でのアナウンスを録音したり撮影したりして、聴いて・観て研究する。
- (4) 担当する競技がない時間に「競技エリアで選手の目線で」「スタンドで観衆の目線で」他のアナウンサーのアナウンスを聴く。
- (5) 競技会後に反省会を行い、互いに研鑽を深める。

5 競技会に臨むための準備

- (1) プログラムを事前入手するよう心がける
プログラムは当日の受付で配布されることが多いが、事前に入手できれば競技者のプロフィール（自己ベスト（PB）、シーズンベスト（SB）、ランキング、タイトル等）や難読名の下調べができる。全国大会、国際大会等では、事前入手が必須であり、主催者や大会事務局とコンタクトを取ること。
- (2) 持参する用品類
 - ① ルールブック、ハンドブック
 - ② 用箋挟（クリップファイル）
 - ③ ストップウォッチ
 - ④ 双眼鏡
 - ⑤ 筆記具
 - ⑥ 時刻の規正された時計、ラジオ
 - ⑦ 競技会の規模・性格に応じて、ラップタイム表、記録集、ランキング表等
 - ⑧ 混成競技が実施される場合は、採点表と電卓
- (3) 競技場には遅くとも競技開始1時間前には到着する
- (4) プログラムの確認
 - ① 日程（タイムテーブル）
 - ② 表彰の有無
 - ③ 注意事項（招集の仕方・招集時刻、次ラウンド進出の決定方法、予選通過

標準記録、長距離種目の打ち切り時間、バーの上げ方等)

(5) 体制の確認

- ① 何名で担当するのか（「8 アナウンサーの編成と分担」参照）
- ② マイクの設置本数
- ③ システムによる情報処理の有無。PCの設置台数
- ④ 記録用紙の流れ、紙（印刷物）の記録掲示方法・場所
- ⑤ 他の部署との連携方法、無線でのコンタクト可能部署、回線番号等
- ⑥ 音楽使用の有無
- ⑦ スクリーン（大型映像）使用の有無と使用する場合の表示内容
- ⑧ TV中継、ネット配信の有無

6 初心者が特に注意すべきこと

(1) 全般

- ① 力みすぎ、あるいは声にハリがない
- ② 種目名の言い誤り（例：× 3000m障害物競走 → ○ 3000m障害）
- ③ マイクに正対しない → 口許に対してマイクが直角になるようにする
- ④ マイクに近づきすぎる。声が割れる場合がある
- ⑤ しゃべり方が速い
- ⑥ 語尾が不鮮明 → 自信をもって最後まできちんと言い切る

(2) 紹介

- ① 「～m競走予選」の言い方で、「競走」と「予選」をつなげてしまう。
→ 「競走」のあと、ひと呼吸おく。
→ 「競走」は省くこともある。
- ② 選手がすでにスタートラインの後方に並んでいるのに、待たせてしまう。
→ 見どころ等のコメントをしても、スタート地点を観察し、準備状況を確認しながら紹介タイミグがずれないようにする。

(3) 途中計時

- ① 途中計時地点の通過と同時に、ラップタイムをアナウンスできない。
例) 計時地点に到達する前に「先頭は○○君、間もなく△△mの通過」までアナウンスしておき、通過と同時にラップタイムだけをアナウンスするべきところ、通過後「先頭は○○君…」からアナウンスを始めてしまう。

※これは初心者のみならず中堅アナウンサーにも多く見られる。慣れるまでは余裕をもって、計時地点の7~80m手前から「先頭は…」を言い始めるとよい。

- ② 競技者を意識していない400mの途中計時の言い方（例：66秒を1分06秒）
→ 競技者は、400mラップは秒単位で聞くことに慣れているので、競技者の立場に立って秒単位で伝えることが親切。ただし90秒を越えた場合などは分・秒で言うなど、当該競技会で統一しておくとうい。

(4) 結果発表

- ① （スクリーンを使用しない競技会で）プログラムページを言わないで結果を

- 発表する（プログラムに記入できない）。
- ② （スクリーンを使用しない競技会で）プログラムページを言ったあと、すぐに結果の発表を始める（プログラムを開く余裕がない）。
 - ③ 話し方が速すぎる。速さにムラがある（聞き取れない・書き取れない）。
 - ④ 数字の語尾が下がる。特に1/100秒の位（聞き取りにくい）。
→ 例）10秒78なら「10秒、なな、はち」と離して言うとい
 - ⑤ 陸上競技の記録の数字は最も大事な情報。数字は最後まで丁寧にアナウンスする。
 - ⑥ 風向風力の情報を言い落とす。
 - ⑦ 周囲の状況を見ないで発表してしまう（「On Your Marks」の声がかかった後に話し始める、フィールド競技で新記録に挑戦しようと助走の態勢に入っているのに話し始める 等）。
→ アナウンスする前に、自分が担当する種目以外の競技エリア全体の「今の状況」を注意して見る。

7 アナウンス以外に身につけたい技術

基本的なパソコン（以下、PC）操作ができる

- ・必要な情報をPCからスムーズに、かつ適時適切に入手するための基本的な操作方法を身につける。
- ・PCの画面を見てアナウンスできるようにする。画面の情報を手元のプログラムや印刷物に書き写す行為は、一刻を争う事態に対応できないことに加え、書き損じの危険もある。

8トラック競技偏重を避けるために

競技会の進行上どうしてもトラック競技を優先させてしまい、トラック競技に偏ったアナウンスになりがちである。また、新しいアナウンサーを養成する際、馴染みやすきからトラック競技のアナウンスから取り組ませることが多いため、フィールド競技に不慣れなアナウンサーが多い。

陸上競技会はトラック競技とフィールド競技から成り立っており、フィールド競技にアナウンスの重点を置き、競技の魅力をバランスよく伝えられるように努力したい。トラック競技偏重を避けるために、次のような工夫が考えられる。

- (1) トラック競技の予選の選手紹介を省略する（次ラウンド進出条件と組数、出場者数のみを紹介）。
- (2) 3000m以上のトラック競技の長距離種目では、途中計時を1000mごとにする（400mごとの途中時間のアナウンスは不要。TR19.3）。
- (3) フィールド競技担当のアナウンサーを増やす（1種目1名が原則）。
- (4) システムを利用する競技会では、トラック競技担当用とフィールド競技担当用にPCを複数用意してもらおう。システムを利用しない競技会では、フィールド競技の一跳一投の記録を手許のプログラムに手書きで記入し（補助員がいれば担当させてもよい）、その経過を積極的にアナウンスする。

- (5) トラック競技の合間にフィールド競技の描写アナウンスを多く入れる。フィールド競技の合間にトラック競技を入れる感覚で。

9 アナウンサーの編成と分担

- (1) 競技会の規模により編成も異なるが、アナウンサーは競技種目数にふさわしい人数で編成される必要がある。複数競技が同時進行する局面では、種目ごとに専任アナウンサーが配置できる人数の編成が望ましい。
- (2) トラック競技偏重を回避するためにも、フィールド競技や混成競技については種目ごとに専任アナウンサーを配置し、一跳一投の描写を行いたい。
- (3) 分担は「種目ごと」または「時間帯」で分けるのが一般的。ひとつの種目の種目紹介・見どころ・選手紹介・描写・結果発表・表彰までを担当させた方が、アナウンサーの運用が効率的であり、詳細を把握しているため場面に応じたコメントも期待できる。
- (4) 編成されたアナウンサーの人数、経験や技量にもよるが、「常にトラックだけ、フィールドだけ」という分担は避ける。競技やルールに精通し、アナウンスのレベルを向上させるように、各アナウンサーにトラック・フィールドのあらゆる種目を担当させる。初心者を中心に結果発表の専任にするケースがあるが、このような分担はアナウンサーの育成上も好ましくない。
- (5) 分担にこだわりすぎることなく、必要に応じて各アナウンサーが弾力的に対応する体制を心がける。
- (6) 多種目の競技を漏れなくカバーするために、補助員の機動力を活用する。
- ① 結果発表時刻等のチェックと進行表への記入
 - ② 長距離種目でナンバーの読み取り、確認
 - ③ フィールド競技の一跳一投を追い、プログラムに記入
 - ④ ピット（跳躍・投てきを行っている場所）に行かせて、トップ8の確認
 - ⑤ 難読名等の調査・確認
 - ⑥ 音楽使用時の操作
 - ⑦ スタートリスト、リザルト類の整理

10 アナウンス内容の取捨選択

アナウンスの基本は重視しつつも、アナウンスする内容を取捨選択して省力化を図り、競技会を円滑に進める工夫も必要になる。

- ・アナウンスの内容が多すぎて、競技進行に支障を来すようでは本末転倒。
- ・予選組数が多い中で漫然と同じことばが繰り返されると、アナウンスを聞かなくなる恐れもある。
- ・予選と決勝でアナウンス内容に変化をつける。
- ・常にアナウンサーが話し続けている状況は、競技者や観衆にとって苦痛に感じられる。アナウンスしない時間を作ることで「集中」「間」「余韻」を持た

せることができる。

- ・複数競技が同時進行中の場合、全競技を平等に描写することは不可能。競技の進行状況や記録等から優先順位を考え、「濃淡」をつけたアナウンスを行う。

→ 予選より準決勝・決勝、フィールド種目では前半の試技より後半の5、6回目や、新記録挑戦などを優先する。

例えばトラック種目の予選と、フィールド種目の6回目が重なっている場合では、トラック種目のライブリザルトなどのコメントよりフィールド種目の描写を優先させる。

また、フィールド種目で大会新記録に挑戦する場面や優勝をかけた最後の試技などがトラック種目のスタートと重なってしまう場合は、トラック種目のラウンドにかかわらず、スタート時間をずらしてフィールド種目に注目させることをしてよい。

その場合は進行担当・フィールド審判員・スタートチームとの連携が重要になる。

Ⅲ 実践編

■トラック競技

1 全般的な留意事項

- (1) フィールド競技との関係を考慮しながらも、競技日程に従って競技に遅れることがないように、紹介や結果発表のアナウンスをしなければならない。
- (2) 予選、準決勝、決勝のようにラウンドが進む種目では、同じアナウンサーが担当することが望ましい。
- (3) 無線等を活用しながら、スタートチームと連携する。
- (4) タイミングに十分な注意が必要。競技の進行状況に注目しながら、「正確」「的確」「迅速」にアナウンスする。
- (5) ともすると饒舌なアナウンスに走りすぎて、フィールド競技に影響を及ぼし、観衆に不快感を与えることもあるので、周囲の状況や雰囲気をも十分に把握した上で、アナウンスする。激しい先頭争いが行われるようなレースでは「絶叫型アナウンス」に陥らないよう注意する。
- (6) 競技開始時刻の基準（「号砲」か「On Your Marks」か）を関係者全員で共有しておく（通常は「On Your Marks」を基準にしていることが多い）。

2 紹介

- (1) セパレートレーンでスタートする種目
 - ① スタート練習が終わり、写真判定員の準備が完了したら、出発係から無線等を用いて選手紹介を開始してよいことを連絡してもらう。
 - ② 紹介アナウンス（Lane by Lane）の内容は
 - < a > 種目名
 - (< b >スクリーンを使わない場合、プログラム記載ページ)
 - < c > 大会記録等
 - < d > 組数や次ラウンド進出条件
 - < e > レーン
 - < f > (ナンバー) 出場者名
 - < g > 所属であるが、練習を終えてスタート地点に戻ってくるまでに< a >～< d >を事前に紹介しておき、準備完了の合図と同時に< e >以下を紹介する。
 - ③ 紹介は1レーンから行う。
曲走路でスタートする種目では8レーンから紹介するケースもあるが、テレビ中継や場内映像用にカメラマンが選手に近接して撮影する場合に限る。これはカメラマンの動きと安全性を考えたことなので（1レーンからだ後退しながら撮

影することになるが、8レーンからだど前進しながら撮影ができる)、近接での撮影が入る場合は、中継関係者と相談の上、どちらから紹介するかを決める。

- ④ 紹介が終了したらスターターが直ちに「On Your Marks」の合図が言えるよう、話す速さや内容を考える。8名出場で競技者に圧迫感を与えない< e >～< g >の紹介スピードは50～60秒程度が目安。
- ⑤ トラック競技偏重になるのを避ける観点から、また過密ダイヤを消化するための工夫として、予選の場合は出場者がプログラムに記載されていることを事前に断る、あるいはスクリーンに表示させることでレーンごとの出場者の紹介を省略し、出場人数のみをアナウンスする方法が一般的。
- ⑥ 紹介アナウンスを行うのか、省略するのか、事前にスタートチームと十分な打ち合わせをしておく。また、難読名についてはPCのモニターでも確認できない場合には(特に所属名)、無線を通じて出発係に選手本人へ確認してもらう。
- ⑦ スターターはアナウンス終了と同時に、「On Your Marks」を言うよう心がけている。紹介の終わりには、「～の出場です」のように結語を必ずつけること。

【例1 基本パターン】(選手名紹介を省略した例)

- ① トラックでは、〔種目〕競走、〔予選/準決勝/決勝〕が行われます。
- ② この種目の大会記録は、○秒○○です。
- ③ (予選/準決勝の場合、次ラウンドへの進出条件)〔種目〕競走、〔予選/準決勝〕は全部で○組行われ、各組着○までと、○着以下、上位記録○名が決勝へ進みます。
- ④ 予選1組、8名全員の出場です。
(予選1組、○レーンを空けて7名の出場です。)

- [注]
- i スクリーンを使用しない競技会の場合は、①の後にプログラムの記載ページを入れてもよい。
 - ii 次ラウンドの進出条件に関しては「進みます」のほか「進出します/です」等の言い方もある。
 - iii ④の結語として「〔種目〕が行われます」「〔種目〕がスタートします」等の言い方もある。過密ダイヤでは端的に。
 - iv 欠場者がいる場合は「____さんは棄権です」とは言わず、「6レーンを空けて、○名の出場です」と言う(時間短縮やメリハリをつける観点から、欠場者のレーンに「第」はつけない)。番組編成で最初から空いているレーンについては、コメントしない。
 - v 出場人数のアナウンスの誤りが非常に多いので、話し始める前にスタート地点を見て必ず人数を確認する。出場人数の情報は写真判定等を行う際に重要な情報である。
 - vi 進行担当やEPの方針で、「出場人数」を省く場合もある。

【例2 予選における簡略化した紹介例】

- ① トラックでは、女子100mハードル、予選が行われます。
- ② 予選は5組あり、各組3着までと4着以下の上位記録1名が準決勝進出です。
(次ラウンド進出条件は必ずアナウンスする)

- ③ 予選1組は、プログラム記載の7名全員が出場します。
(予選2組はプログラム記載のうち、8レーンを除いた6名の出場です。)

〔注〕 i スクリーンに表示する場合は、電光掲示(大型映像)係と連携を取りながらアナウンスする。

例) 「予選1組はスクリーンに表示の通り、7名全員で行われます」

ii スタートリストをスクリーンに事前に表示してもらう方法もある。

例) 「スクリーンには、次に行われる予選3組の出場者が表示されています」

【例3 準決勝、決勝の紹介例】

- ① トラック競技は、女子1部400m競走、決勝です。
② 日本記録は51秒75、大会記録は53秒45です。
③ 出場者を紹介します。
第2レーン、高島菜都美さん、中央大学。
第3レーン、津川 瑠衣さん、早稲田大学。
第4レーン、大島 愛梨さん、中央大学。
(以下最終レーンまで同じ)
⑤ 以上の出場で、女子400m競走、決勝です。

〔注〕 i 欠場者がいる場合は「___さんは棄権です」とは言わず、「○レーンを空けて」と言う。欠場者のレーンに「第」はつけない。番組編成で最初から使用しない一番内側のレーンと、一番外側のレーンが欠場の場合はコメントしない。

ii 最近ではナンバー紹介を省き、フルネームを紹介するケースが増えている(ナンバーを紹介すること自体は誤りではないが、ナンバーよりも名前が重要という考え方による)。

iii 国際大会等、外国人選手が多数出場する競技会では、「君」「さん」をつけない。

iv 荒天時や酷暑時には、あらかじめ出発係と打ち合わせの上、流しやスタート練習の間に先に選手紹介を行ない、アナウンスが終わったタイミングで競技者をスタートラインにつかせる方法もある。

【例4 紹介前の見どころ・解説例】

- ① (出発係からの合図が入る3~5分前に) 20時30分から(「間もなく」「このあと」等)、トラックでは、男子100m競走、決勝が行われます。
② 日本記録は6月に、本日も出場する山縣君がマークした9秒95。大会記録は一昨年の覇者、サニブラウン・アブデル・ハキーム君の10秒02。
そして、東京オリンピック、参加標準記録は10秒05です。
③ 決勝には、派遣標準記録を突破している5名、山縣君・ハキーム君・小池君・桐生君・多田君が出場。この選手の中で3位までに入ると、東京オリンピック出場内定となります。

- ④ かつてない、ハイレベルな争いが期待される男子100m競走、決勝、間もなくスタートです。

- 〔注〕 i レーン紹介前に解説を入れる場合、同時進行のフィールド競技にも配慮をする。6回目最後の試技などと重ならないタイミングを選ぶ。
- ii 紹介する時間に余裕がない場合や天候不順の場合等には、準備完了前（スターティングブロックの調整中やスタート練習中）に、各出場者のプロフィール等を紹介しておく。その際には、事前にスクリーンにスタートリストを表示するよう電光掲示（大型映像）係に依頼するとよい。
- iii 有力選手が出場する場合は戦績等を紹介する（「見どころ」「前振り」）。あらかじめ記録等を調べて、原稿を作成して読み上げても、あるいはメモを基にアナウンスしてもよいが、長くても60秒程度にとどめること。【付録2、3参照】
- iv 必ず全員のプロフィールを紹介する必要はなく、主要選手のみの主要成績等の紹介でよい（冗長感があることから、3名程度に絞りたい）。特定の競技者に極端に肩入れしたり、応援したりするようなコメントは避けること。事実を淡々と。特にインターハイやインカレ等の競技会（対校戦）では公平性にも配慮する。
- v 資格記録、予選、準決勝の記録を紹介するだけでも、観衆の関心は高まる。

【例5 プロフィールを挿入しながら紹介する例】

- ① トラックは、女子100m競走、決勝です。
- ② 第2レーン 世古 和、 CRANE
第3レーン 齋藤 愛美、 大阪成蹊大学
第4レーン 準決勝トップ通過、連覇を狙う、兒玉 芽生 福岡大学
第5レーン 予選で自己ベストを更新、 壹岐 あいこ 立命館大学
第6レーン 今季国内ランク2位、 石川 優 青山学院大学
第7レーン 予選の記録は今季国内ランク3位、
君嶋愛理沙 土木管理総合
- 第8レーン 名倉 千晃、 NTN
第9レーン 青山 華依、 甲南大学
- ③ 女子100m 決勝！

- 〔注〕 i 事前に解説を入れる余裕がなかった場合、紹介時に各選手のプロフィール等を挿入してアナウンスしてもよい。この場合、全員にコメントをつける必要はない。
- ii 「日本記録保持者」等の冠をつけて紹介する場合は、レーンナンバーと氏名の間に挿入する。
例) 第5レーン、日本記録保持者、___さん、〔所属〕
- iii 長く待たせると競技に影響を及ぼすので、プロフィールの紹介は最小限に留める。

【例6 リレーの紹介例】

- ① トラックでは男子400mリレー予選が行われます。
- ② 予選は5組行い、各組1着と2着以下、上位記録3チームが決勝に進みます
- ③ 日本高校記録は2012年に京都・洛南高校が作りました39秒64です。
- ④ 出場チームを紹介します。
 - 2レーン、西条農業
 - 3レーン、中京大中京
 - 4レーン、法政第二(以下最終レーンまで同じ)
- ④ 以上の出場です。

- 〔注〕 i 不慣れな出場者（小・中学生、定時制高校生等）が多い場合には、競技者がアナウンスを聞いて自分のレーンを確認できるようにトラックに出てきて練習を開始した時点で一度、「競技に先立ちまして、レーンの確認をします」等のコメント付きでレーン（「第」はつけない）・チーム名をアナウンスすると親切である（反復するとよい）。
- ii 各コーナーを見渡し、準備が遅れているコーナーがあれば準備を促すコメントを入れる。
- iii 出発係から合図があったら、第2走者以後の準備完了も確認してからアナウンスを始める。
- iv インターハイや全日中等の場合、出場者は高校や中学校に限られるので、所属名の「高校」や「中学校」は省略する。

【例7 リレーでメンバーまで紹介する例】

- ① トラックでは、女子400mリレー、決勝が行われます。
- ② 日本高校記録は2015年に東京高校がマークしました44秒48です。
- ③ それでは決勝に出場チームとそのオーダーを紹介します。
 - 第2レーン、大阪（高校）・大阪。
(第1走者から)松田さん、青山さん、酒井さん、麻生さん。
 - 第3レーン、立命館慶祥・北海道。
橋本さん、水口さん、石堂さん、松田さん。
 - 第4レーン、中京大中京・愛知。
岸本さん、倉橋さん、須藤さん、藏重さん。(以下最終レーンまで同じ)
- ④ 以上の出場です。

- 〔注〕 i 4×400mリレーの場合、オーダーを紹介する時間的余裕がなければ、レース中やバトンパスのタイミングに合わせて、「__高校の2走は__君」のように紹介する方法もある。
- ii 学校名と都道府県名が同じ場合、学校名の後に高校をつけるとよい。
- iii インターハイでは学校名だけで、都道府県は除くことが多い。

(2) レーンを使用しないでスタートする種目

- ① 出場者の多い長距離種目でもスタート前に選手紹介を行うのが原則。前もって種目名、次ラウンドへの進出条件、見所等をアナウンスした後、出発係からの合図を受けて一人一人の紹介を始める。人数が多い場合は、出場者が出発係の点呼を受けて、軽くウォームアップをし、スタートライン付近に戻り始めた頃がアナウンス開始の目安となる。
- ② アナウンスの所要時間がスタート時刻に影響するので、10名1分見当、20名2分見当でアナウンスする。何分前に集合させるか出発係と打ち合わせておく。
- ③ タイムテーブルに余裕がない場合には、「出場選手はスタートしてから紹介します」等と断った上で人数のみを言い、選手名はスタート後に紹介する。
また、予選においては、プログラムを参考にして欠場者のプログラム記載順の番号と出場人数だけをアナウンスする方法もある。ただし、これらはいくまでも簡略化した方法であり、特に決勝においてはスタート前に出場者名まで紹介できるよう、アナウンス開始のタイミングを考える。
- ④ 状況に応じて紹介のタイミングを変えることが予想される場合は、その旨を出発係に伝えておく。
- ⑤ 紹介はプログラム記載順に、内側から並べた順序で行なう。
プログラム記載順とは逆に外側から紹介するケースもあるが、これはテレビ中継や場内映像用にカメラマンが選手に近接して撮影する場合に限る。近接での撮影が入る場合は、中継関係者と相談の上、どちらから紹介するかを決める。

【例8 1500mの紹介例】

- ① トラックでは、男子1500m競走、準決勝が行われます。
- ② 準決勝は2組（ふたくみ）行われ、各組6着までと7着以下、上位記録4名が決勝に進みます。
- ③ 準決勝第1組の出場者は、
中村 伸太郎君、海進・長崎。川原 琉人君、三井楽・埼玉。
松井 海斗君、毛呂山・埼玉。… （以下、順にアナウンスする。）
- ④ 以上16名の出場です。

【例9 1500mでスタート後に選手名紹介する例1】

- ① トラックでは、男子1500m競走、準決勝が行われます。
- ② 準決勝は2組行われ、各組6着までと7着以下、上位記録4名が決勝に進出します。
- ③ 準決勝1組の出場者は、スタートしてから紹介します。
（スタートしたあと）出場者は、中村 伸太郎君、海進・長崎。
川原 琉人君、三井楽・埼玉。松井 海斗君、毛呂山・埼玉。…
（以下全員）
- ④ 以上16名です。

〔注〕 長距離走で出場人数が多いと、選手紹介の途中でラップタイムを挟むことがあるので注意する。

【例10 1500mにおける簡略化した紹介例2】

- ① トラックでは、男子1500m競走予選が行われます。
- ② 予選は6組あり、各組2着までと3着以下、上位記録3名が決勝に進みます。
- ③ 予選1組は、プログラム記載の14名、全員の出場です。

【例11 5000mにおける簡略化した紹介例】

- ① 男子5000m競走予選が行われます。
- ② 予選は4組あり、各組4着までと、5着以下、上位記録4名が決勝に進みます
- ③ 予選1組の出場者は、プログラム記載のうち、5番目、12番目、18番目を除く16名で行われます。
- ④ それではスタートです（スタートにご注目を！）

〔注〕 プログラム記載順の番号を、長距離走では概念がない「レーン」と言ったり、別の意味（リレーのオーダー）でも使っている「オーダー」「オーダーナンバー」とは言わないこと。「○番目」といった言い方にする。欠場者が3名を超える場合などは、「○名が欠場し、□名の出場です」などでもよい。

3 不正スタート・スタートのやり直し

- (1) TR16.5 に従いスタートのやり直しをする際に、競技場内の観衆や関係者に「今、何が起こったのか」を説明する場合は、スタートのやり直しに影響しない工夫が必要である。下記〔注〕参照。
- (2) より具体的な状況説明を行う為に、事前にスタートチームとアナウンサーで打合せを行い、対象となる事象が発生した際には無線等で状況説明を受け、出発係が選手に示すカードとともに場内にアナウンスする。カードを示す前にコメントしてはならない。
- (3) 出発係からアナウンサーへの連絡内容、アナウンサーでのコメント内容についてパターン化し、符号表的なカードを双方で持つことで、出発係からの簡潔な連絡、アナウンス・コメントの統一が可能となり、即座に場内への説明ができる。

<コメント例> (審判ハンドブック 2021-2022 年度版 P.133 参照)

赤黒	「○レーン」が不正スタートと判定されました。
グリーン	ただいまのは、不正スタートではありません。
	①機械の不調で、スタートをやり直します。
	②スタートをやり直します。
黄黒 (混成)	「○レーン」が1回目の不正スタートです。このあとの不正スタートは、全て失格となります。

〔注〕 ②は体のピク付き等でスタートをやり直す場合のコメント。競技会開始直後は説明するが、度重なりと耳障りとなり、場合によっては選手の集中にも影響する。

②に関しては競技開始後2～3回ほどコメントすれば、そのあとはしなくてよい。その場合は、事前にスタートチームへ伝えておく。

4 途中経過・描写等

- (1) レースの状況により、「先頭は○番（またはユニフォームの色、セパレートレーンの競技であればレーンナンバー等）、____大学の____君、続いて____大学の____君、3番目には____大学の____君」のように説明する。
- (2) ×「先頭は____君、続いて____君、君と____続きます」（重複表現）
○「続いて____君、____君」や「先頭は____君、その後ろに____君、____君と続きます」のように表現を工夫する。
- (3) 予選等において、最後のホームストレートで接戦になった場合には、「この予選は3着までと4着以下の上位2名が決勝に進みます」等の進出条件をアナウンスしてもよい。
- (4) 接戦の時は「絶叫調」にならないよう、特に注意する。
- (5) 「スタートしました」「フィニッシュしました」「接戦です」「先頭は第4コーナーを回りました」「バトンは第2走者に渡りました」など、見てわかることをコメントする必要はない。

5 途中時間

- (1) 途中計時は計時員の任務であるが、TR17.14により、途中時間や予想優勝時間はアナウンサーが公式にアナウンスすることができる。
- (2) 途中計時を行う時の「ポイント」として、計時地点のフィールド内にラップ用旗を立ててもらう。
- (3) 途中時間はあくまで参考なので、秒未満は発表しない。また、秒単位へ繰り上げて発表する。例)「5分23秒14」→「5分24秒」
- (4) フィニッシュタイマーやスクリーンなど場内の時計が使用される場合は、場内の時計を優先する（場内の時計が作動しないこともあるので、手許の時計はバックアップとして必ず使用する）。
- (5) 誤読や周回の誤りを防止するため、プログラムやラップタイム用紙に必ず計時距離、周回数、時間等を逐次記入する。
- (6) 主な中長距離走（含むトラックで行われる競歩）の計時方法
 - ① 800m、1500m …………… 周回ごと
 - ② 2000mSC、3000mSC …………… 1000mごと（周回ごとを入れてもよい）
 - ③ 3000m、5000m、10000m …… 1000mごと
 - ④ 5000mW、10000mW …………… 1000mごと
- (7) 選手、観衆とも途中時間のアナウンスを参考にしているので、計時地点通過直後に迅速かつ簡潔明瞭にアナウンスすることが最大のポイント。そのため、計時地点を

通過する前に先頭走者のナンバーや氏名をアナウンスしておき、通過後はタイムのみを簡潔にアナウンスする（通過後10m以内を目途にラップタイムのアナウンスを完了する）。日本記録の際の途中時間や以前に出した記録等と比較する場合も、通過前にアナウンスする。

- (8) 周回ごとのラップタイムや、1000mごとの通過時間からおおよそのフィニッシュタイムを予想するために、計算をすばやく行う工夫（ラップタイム換算表の準備、手許で周回ごと・1000mごとの時間を計算するワークシートの準備）も必要となる。
【付録4参照】

【例12 途中時間アナウンス例1】

- ① （通過前）5000m競走決勝は、間もなく2000mを通過します。
- ② Hondaの設楽君を先頭に、2000mは、5分…
（ここまでを通過ポイントの手前で言う）
- ③ （通過直後）26秒、5分26秒。

〔注〕 通過後は間髪入れずにタイムだけを伝える。通過したのに「2000mの通過、先頭は設楽君、Hondaで、5分26秒でした」等と長々とアナウンスしない。

【例13 途中時間のアナウンス例2】

- ① （通過前）5000m競走決勝は、設楽君を先頭に、間もなく2000m。
- ② ○○君が日本記録をマークした時は5分22秒。設楽君は、5分…
- ③ （通過直後）26秒、5分26秒の通過です。
- ④ 日本記録に迫るハイペースです。

【例14 タイミングを意識した途中時間のアナウンス例】

- ① （直走路の中間を過ぎたら）5000m競走決勝は、先頭が間もなく2000mを通過
- ② （10m程度手前で） 2000mは 5分…
- ③ （通過直後、間髪を入れずに） 26秒、5分26秒。この1000mは2分47秒。

〔注〕 選手にとっても途中時間は通過直後に聞きたい情報であり、通過前に距離や先頭の選手をコメントしておき、通過直後にタイムだけアナウンスする。

【例15 途中時間からフィニッシュタイムを予想するアナウンス例】

- ① （通過前）10000m競走決勝は、（所属）の___君を先頭に間もなく4000m。
- ② 先頭の1000mごとの通過時間は 2分49秒、2分46秒、2分51秒と来ています。
- ③ 4000mは 11分……（通過直後）13秒、11分13秒の通過です。
- ④ この1000mは 2分47秒。27分台が狙えるペースになりました。

6 フィニッシュ

- (1) フィニッシュライン付近のフィールド内にフィニッシュタイマーが置かれることが多いので、1着の速報の発表に十分活用する。
- (2) フィニッシュタイマーの最初の表示は、1着に入った選手の身体の一部（必ずしもトルソーではない）が光電管を遮ることによって測る参考記録であり、正式記録の「速報」ではない。従って「速報は〇秒〇〇」とは言わず、「フィニッシュタイマーは〇秒〇〇で止まっています」等とコメントしておく。
一度消えてから、再びレーンナンバー、ナンバー、記録が表示されたら「1着は〇レーンの___さんで〇秒〇〇」等とアナウンスする。
- (3) 大会新記録等が期待できる場合は1着の速報が表示される前に、「___君の記録はどうでしょうか」、数人で競り合った場合には「4レーンは___君、3レーンは___君、最後に追い込んできたのは6レーン___君でした。フィニッシュタイマーにご注目を！」等と観衆の目をタイマーに向けさせるコメントをしてもよい。
- (4) 200mまでの種目は、風向・風力にも注意する。速報発表時は風力速報表示器を確認する。
- (5) 黄旗が挙がっていてもフィニッシュタイマーに速報が表示されるが、1着とは関係ないところで黄旗が挙げられることも多いので、記録の速報性を重視し、黄旗が挙がっていることを断った上でアナウンスする。
「黄旗が挙がっていますが1着は…」等。
- (6) 写真判定中の結果がスクリーンに順次表示される「ライブリザルト」方式の場合、PCのモニターを見ながら「写真判定中の速報です」のコメントをつけて発表する。しかし、度重なるとしつこくなるので、競技開始から2～3回言えばよい。
- (7) 大規模大会でスクリーンにリプレイ（VTR映像）が映し出される場合には、「リプレイをご覧ください」「リプレイです」等と言って観衆の目をスクリーンに向けさせる。よくある流れとしては（写真判定や映像処理の所要時間が関係するが）、
「フィニッシュ → フィニッシュタイマーでの1着速報 → 3着までのライブリザルト → (映像) リプレイ → 4着以降のライブリザルト」となる（3着までのライブリザルトとリプレイの順番が逆になることもある）。
- (8) 日本新記録、大会新記録等はプログラムでも確認できるが、それ以外でも、「歴代第〇位」「100mに続いて2冠」「3年連続4回目の優勝」「U20日本新記録誕生」「中学新記録誕生」等のコメントを速報段階でも紹介できるよう準備しておきたい。風向風力が関係する種目では風の確認を忘れないようにする。

【例16 フィニッシュのアナウンス基本パターン】

- ① フィニッシュタイマーは〇秒〇〇で止まっています。
(観衆の注目をフィニッシュタイマーに促す)
- ② ただ今のレース〔追風/向い風〕〇.〇m。(風力速報表示器に注目を促す)
- ③ スクリーンはリプレイです。(スクリーンに注目を促す)
4レーンは___君、3レーンは___君、6レーンは___君。

- ④ (フィニッシュタイマーにレーン番号とタイムが表示されたら)
1着は〇レーン、___君、〔 所属 〕。〇秒〇〇。

- 〔注〕 i 風力表示板がどこにあるかのコメントを1レース目に行い（「メインスタンド前の表示板で、風の情報にもご注目ください」）、以降のレースでは、単に「追い風（向い風）〇・〇m」とアナウンスするとよい。
ii 紹介時にはレーンに「第」をつけるが、メリハリをつける観点から、描写時や結果発表時には「第」をつけなくてよい。

【例17 新記録誕生時のアナウンス例】

- ① フィニッシュタイマーは12秒87で止まっています。
② (表示を待って) 追い風0.6m。
③ 従来の日本記録は12秒96。
フィニッシュタイマーは日本記録を上回っています。
④ (フィニッシュタイマーの表示と同時に)
12秒87。日本新記録の誕生です。
寺田さん、自身の記録を9/100秒更新しました。
⑤ スクリーンはリプレイです。寺田さん、スタートから飛び出し、力強いハードリングで、2着以下に大差をつけてのフィニッシュでした。
⑥ 日本新記録を樹立した寺田さんに、どうぞ大きな拍手を。

【例18 2着以下の速報のアナウンス例】

- ① 女子200m決勝は、追い風1.8mの中で行われました。
② (表示と同時に) 1着は4レーンの福島さん、22秒88。
日本新記録の誕生です。
③ 2着は高校生、5レーンの斎藤さん、23秒46。
U18日本新記録をマークしました。
④ 3着以下の結果はお待ちください。

【例19 黄旗が上がっている場合のアナウンス例】

- ① 向い風0.7mの中で行われた、男子110mハードル準決勝第1組。
② 1着は4レーン〇〇君。フィニッシュタイマーは15秒19を示しています。
③ 黄旗が挙がっていますので、正式結果をお待ちください。

7 成績発表

(1) 個人種目

- ① 競技者本人はもちろん観衆も結果を一刻も早く知りたがっているので、迅速に発表するように心がける。
- ② 他の競技の進行状況をよく確かめ、結果発表のアナウンスを行うタイミングを判断する。
- ③ 「フィニッシュ → 結果発表 → 次の紹介」の順序を原則とする。記録に誤りがないか（特に着順・時間、風力、新記録等）確認した上で発表する。
- ④ 結果（リザルト）はためないで、できるだけ早く発表する。必ずしも競技の実施順に確定するとは限らないので、（紙）手許に来たもの、（PC）表示されたものからできるだけ早く発表する。順序が前後する場合はその旨を断ってから発表する。
- ⑤ 結果の記載（表示）形式は、1行目が必ずしも1着ではないので注意する。
- ⑥ プログラムに記入させる場合は聞き手の立場に立って、プログラムの様式に合わせたアナウンスをするよう留意する。
- ⑦ スクリーンを使用する時は、表示タイミングと合わせてアナウンスする。
- ⑧ 抗議に備え、PCを使用する場合でも発表時刻をプログラム等に記入する。
- ⑨ 日本新記録や大会新記録等の好記録をマークした場合は、あわせてアナウンスする。特に、U18/20日本記録などが見逃されることが多いので注意する。

【例20 基本パターン】

- ① 先ほど行われました（「ただいま行われている」）
〔種目〕、予選〇組の結果を発表します。
（プログラムを開く観衆もいるので、少し間を置いて）
- ② 1着、〇レーン（または〇番）、___君、〔所属〕。〇秒〇〇。
（以下順に出場者全員発表）
- ③ （200m以下の種目では）〔追い風／向い風〕、〇. 〇mでした。

- 〔注〕
- i スクリーンを使用しない競技会の場合は、最初にプログラムの記載ページを言う。
 - ii 時間短縮やメリハリをつける観点から、結果発表時の組やレーンには「第」をつけない。
 - iii 結果を発表する際には、種目名（ラウンド・組）に「結果です」「発表します」「お伝えします」等の結語をつける。

【例21 100mの成績発表例】

- ① スクリーンには、ただいま行われています、男子100m競走、予選2組の結果が表示されています。
- ② 予選2組
 - 1着、6レーン、宮本君、東洋大学、時間、10秒29。
 - 2着、1レーン、林君、中央大学、10秒41。
 - 3着、5レーン、佐野君、早稲田大学、10秒43。

- ③ 追い風1.7mでした。
- ④ 以下はご覧のとおりです。

- 〔注〕
- i 風力情報は「+」「-」で表記されているが、「プラスの風」「マイナスの風」とは言わない。スクリーンに結果発表される際、風の情報が抜けている場合には、記録・情報処理員（あるいは電光掲示係）に情報の追加表示を依頼する。
 - ii 時間に余裕があれば、全員の結果を発表する。余裕がなければ、スクリーンや掲示板等で確認してもらう旨を伝え、下位を省略してもよい。ただし、次ラウンドに進出できる $+\alpha$ の対象となる順位までは極力発表すること。例)「予選2組3着 $+2$ 」の場合は5着
 - iii 失格者がいる場合はスクリーンに失格理由の略号が表示されているので、簡単に説明する。PCの場合は脚注に説明がある。例)「レーン侵害」→「他のレーンに入ったので失格となりました」「ハードルを越える際にルール違反があったので、失格となりました」等
 - iv 通過条件の最終枠に同着・同タイムがいる場合、 $+\alpha$ が変更されることもあるので、内容をよく確認する。

【例22 400mハードルの成績発表例】

- ① 先ほど行われました男子400mハードル、予選3組の結果をお知らせします。
 - ② (少し間を置いて)
 - 1着、8レーン、安部 孝駿君、ヤマダホールディングス、時間、49秒59。
 - 2着、9レーン、岸本 鷹幸君、富士通、50秒00。(以下、順に発表)
 - ③ なお、この男子400mハードルは、各組2着までと、3着以下の上位2名が決勝に進みます。その2名は、
 - 1組3着、川越 広弥君、JAWS、50秒16。
 - 3組3着、筒江 海斗君、スポーツテクノ和広、50秒07。以上、50秒07までの2名です。
- (または 対象者の「組・着順・名前・所属」を言い、それぞれの時間は言わず、最後に「以上、50秒07までの2名です」でもよい)

- 〔注〕
- i プラス α の選手の発表は、当該種目予選（準決勝）最終組の結果発表後に行う（記録情報での処理状況により、多少遅れる場合もある）。
 - ii 発表の終わったリザルトを基に、プラスの通過者を確認しておき、番組編成の決定を待ってから発表する。
 - iii プラス α の通過者が複数いる場合、記録順で表記されることが多い。記録のよい順に発表してもよいが、予選の組数が多い場合は、「〇〇秒〇〇までが通過しています」等と断った上で観衆がわかりやすいようにプログラム記載順に発表してもよい。
 - iv スクリーンを使用する場合は、表示順にアナウンスする。
 - v 同タイム着差あり（1/100秒単位では同タイムだが、1/1000秒単位では差

がある) の場合には、スクリーンに1/1000秒単位まで表示してもらい、その内容を説明する。

【例23 1/1000秒で着差がある場合の成績発表例】

- ① 先ほど行われました男子100m競走、決勝の結果です。
- ② (少し間を置いて)

1着、	6レーン、多田 修平君、	住友電工、	時間、10秒15。
2着、	7レーン、デーデーブルーノ君、	東海大学、	10秒19。
3着、	4レーン、山縣 亮太君、	セイコー、	10秒27。
4着、	8レーン、小池 祐貴君、	住友電工、	10秒27。
5着、	5レーン、桐生 祥秀君	日本生命、	10秒28。

(以下、順に発表)
- ③ 追い風 0.2mでした。
- ④ 尚、4着と5着は 1/1000秒単位で着差がありました。
(スクリーンに1/1000秒単位で表示が行われるのであれば、
「ご覧の通り、4着と5着は○/1000秒の着差がありました」)
(同タイムの場合は、「3着のA君とB君は1/1000秒の単位まで同タイムでした」等)

【例24 上位ラウンドにタイムで進出する選手の発表例1】

- ① 先ほど行われました、女子200m競走準決勝の結果、タイムで決勝に進む選手をお伝えします。
- ② 1組4着、川中さん、法政大学、 24秒43。
2組4着、佐久田さん、東京女子体育大学、 24秒60。
- ③ 以上、24秒60までの2名です。

【例25 上位ラウンドにタイムで進出する選手の発表例2】

- ② 先ほど行われました、男子1500m競走予選の結果、決勝進出プラス4の選手をお知らせします。
- ③ (少し間をおいて)

3組3着、	望月君、創価大学。
3組4着、	近藤君、明治大学。
4組3着、	斎藤君、立教大学。
4組4着、	山内君、青山学院大学。
- ④ 以上、3分47秒63までの4名がプラスで決勝に進出します。

[注] 競技会の性質に応じて、陸上競技に詳しい関係者が多い大会(インカレ等)では「決勝進出のプラスα名」と、一般の観衆が多い大会(中学生の大会や国体、日本選手権等)では「タイムで決勝に進むα名」等と表現を変えてもよい。どちらの表現を理解しやすい関係者が多いかを考える。

【例26 同成績多数で+ α が減少する場合の例】

- ① 男子100m競走予選は全部で11組あり、各組2着までと3着以下、上位記録2名が準決勝進出の条件で行われましたが、8組の2着が1/1000秒までの同タイムで2名いましたので、プラスで準決勝に進む選手は1名となります。
- ② 予選1組3着〇〇番___君___高校、10秒78。
- ③ ___高校の___君がプラス1として準決勝に進出します。

【例27 + α 最終枠に同タイムがいる場合の例（9レーン競技場）】

- ① 男子100m競走の予選は各組2着までと3着以下、上位記録2名が準決勝進出の条件で行われましたが、タイムで進む最終枠に1/1000秒まで同タイムの選手が2名いました。
- ④ この競技場は9レーンありますので、タイムで進む2名を3名とし（プラス2をプラス3とし）、準決勝進出は各組2着までと3着以下の上位記録3名の合わせて9名となります。
- ③ タイムで決勝に進むのは
1組3着の___君〔所属〕。
3組3着の___君〔所属〕。
5組3着の___君〔所属〕。（必要に応じて、名前と所属を反復）
- ④ 以上10秒55までの3名です。

【例28 + α に同成績多数で抽選を行う場合の呼び出し例】

- ① 男子100m予選は各組2着までと3着以下、上位記録2名が準決勝に進みます。
- ② 準決勝進出プラス2に該当する選手が同タイムで4名いましたので、抽選を行います。
- ③ 予選で10秒63をマークした
1組3着の___君〔所属〕。3組3着の___君〔所属〕。
5組3着の___君〔所属〕。11組3着の___君〔所属〕。
- ④ 至急、本部にお集まりください。

【例29 + α 最終枠に発表タイムは同タイムだが1/1000秒単位で差があった場合の例】

- ① 男子100m競走の予選は各組2着までと3着以下、上位記録2名が準決勝進出の条件で行われました。タイムで進む最終枠に同タイムの選手が2名いました。1/1000秒まで精査した結果、〔所属〕のA君は、〇〇秒〇〇X、〔所属〕のB君は、〇〇秒〇〇Yでした。
- ② よって、準決勝には〔所属〕のA君が進みます。
- ③ タイムで準決勝に進むのは〔所属〕のC君と、〔所属〕のA君の2名となります。

(2) リレー種目

- ① メンバーを紹介する場合は、プログラム記載順ではなく提出されたオーダー順に発表する。
- ② 失格となったチームについてはリザルトに記載された理由を説明する。

【例30 400mリレー予選の成績発表例】

- ① 先ほど終了した、男子400mリレー、予選5組の結果です。
- ② (少し間を置いて)
1着、3レーン、洛南高校、 時間、 40秒33。
2着、9レーン、奈良育英高校、 40秒69。
- ③ 3着以下はスクリーンをご覧ください。
- ④ なお6レーンの崇徳高校は、第二走者と第三走者のバトンパスでオーバーゾーンがあったため、失格となりました。

[注] 失格チームがある場合は、リザルトに記載されている失格の理由を確認し、簡潔に説明する。

例) 「オーバーゾーンのため …」
「バトンパスが正しく行われなかったので …」等

【例31 1600mリレー決勝の成績発表例】

- ① 日本高校新記録が誕生した女子1600mリレー、決勝の結果です。
- ② (少し間を置いて)
1着、6レーン、東大阪大敬愛・大阪。
戸谷さん、川田さん、戸谷さん、佐々木さんのオーダーで
3分37秒67。これは日本高校新記録です
2着、7レーン、至学館・愛知、3分42秒81。
3着、8レーン、相洋・神奈川、3分44秒34。 (以下、順に発表)
- ③ 以上でした。

[注] 結果発表時にオーダーをアナウンスする場合は、1位または新記録をマークしたチームにとどめ、全チームのオーダーはアナウンスしない。

8 ライブリザルト表示を活用したフィニッシュと成績発表

- (1) システムが導入され、写真判定中の結果を直接スクリーンに順次表示する「ライブリザルト」方式を採用する競技会が多くなってきた。臨場感あふれる演出として効果的なので、ぜひ活用したい。
- (2) 選手紹介、レースの描写、ライブリザルト、結果発表を一連の流れで(パターン化して)行いたい。写真判定やVTRの編集時間にもよるが、「見所解説→選手紹介→スタート→描写→フィニッシュ→フィニッシュタイマーの1着の速報→3着までのライブリザルト→(映像)リプレイ→4着以下のライブリザルト→結果の確定」とパッケージ化して進めるのが理想的(3着までのライブリザルトとリプレイの順番が逆になることもある)。

- (3) 新記録誕生の場合などを除いて、ライブリザルトを読んだ場合は、正式結果を読むことは省略してよい。

【例32 ライブリザルト表示を活用した予選アナウンスの例】

- ① フィニッシュタイマーは〇秒〇〇。
② スクリーンには写真判定中の速報が表示されています。
1着は(〇レーン)、___君、〔所属〕 〇秒〇〇。
2着は(〇レーン)、___君、〔所属〕 〇秒〇〇。
3着は(〇レーン)、___君、〔所属〕 〇秒〇〇。
以下はどうぞご覧ください。
③ (スクリーンの表示が「確定」または「Official」に変わったら)
追い風1.4mで行われた予選1組、結果が確定しました。

【例33 ライブリザルト表示を活用した決勝アナウンスの例】

- ① フィニッシュタイマーは、〇秒〇〇。
② ただ今のレースは、〔追い風/向い風〕〇.〇mで行われました。
③ スクリーンにはリプレイが出ています。
4レーンは___君、3レーンは___君、最後に追い込んできたのは6レーンの___君でした。
④ 画面は変わって、判定中の速報です。
1着は〇レーン、___君、〔所属〕 〇秒〇〇。
2着は〇レーン、___君、〔所属〕 〇秒〇〇。
3着は〇レーン、〇〇君、〔所属〕 〇秒〇〇。
(以下最後まで)
⑤ (スクリーンの表示が「確定」または「Official」に変わったら)
結果が確定しました。優勝は___君、おめでとうございます。

- 〔注〕 i アナウンスでは「ライブリザルト」とは言わずに「写真判定中の速報」といった表現を使うが、それもはじめの2~3回で、そのあとは省略してよい。
ii 表示に合わせてスピーディーにアナウンスする。短距離走であればフィニッシュして概ね40~60秒で判定が行われ、結果が確定する。
iii ライブリザルトでは、スクリーンに表示される情報(文字・映像)を全てアナウンスする必要はない。
iv 予選、準決勝等の場合や時間に余裕がない時は、「以下はスクリーンをご覧ください」等として、下位のアナウンスを省略することも可能。
また、長距離種目で出場者が多い場合、決勝であっても下位を省略することもあるが、少なくとも入賞者まではアナウンスする。どのように表現するか、何着まで発表するかはその大会のアナウンサー全員で統一する。
v ライブリザルトが確定(Official)に変わる前(正式結果の表示前)に別の情報をスクリーンに表示した場合は、改めて確定した(正式)結果を表示してもらおう。その際、ライブリザルトで速報としてすでにアナウンスした内容は省略する。

- 例) 「スクリーンには〔種目・ラウンド・組数〕の結果が表示されています」
- vi 黄旗が上がった場合はライブザルトの発表は行わない。黄旗が挙げた旨
伝え、フィニッシュタイマーでの1着の速報のみをアナウンスする。
この場合は、電光掲示(大型映像)係にライブザルト表示を行わないよう
に連絡する。
- 例) 「ただ今のレース、1着は___さん 〇秒〇〇。
黄旗が挙がっていますので、正式結果をお待ちください」

■フィールド競技

1 全般的な留意事項

- (1) トラック競技の進行を考慮しつつ、できる限り一跳一投ごとにアナウンスするように努める。
- (2) 一跳一投をアナウンスするために、種目ごとに担当を決め、競技を追い、いつでもコメント（描写）ができる体制をとる。
- (3) 無線やPCを活用し、フィールド審判員・記録情報処理員等と連携する。
- (4) 選手が助走、投てきの準備に入ったらコメントを控える等、アナウンスのタイミングには十分注意する。

2 紹介

- (1) 原則として、練習終了後、競技開始直前に紹介を行うが（紹介終了後、直ちに競技開始）、トラック競技のスタートや表彰と重なる場合は、練習中に紹介するなどして調整を図る。
- (2) 選手を並べて紹介する場合（One by One）は、整列方法や紹介後の移動方法等について、あらかじめフィールド審判員と打ち合わせておく。砂場や着地場所に遠い方から試技順に並び、紹介された選手から待機場所へ戻るパターンが多い。紹介映像が入る場合は、映像に合わせてアナウンスする。
- (3) 競技注意事項を参照し、
 - ・予選の試技順はプログラム記載の左から右か、上から下かを確認する。
 - ・予選通過標準記録等が設けられている場合には、あわせて紹介する。
 - ・高さを競う種目では、最初のバーの高さとその後のバーの上げ方を説明する。
- (4) 有力選手が出場する場合は戦績等を紹介する（「見どころ」「前振り」）。あらかじめ記録等を調べて、原稿を作成して読み上げても、あるいはメモを基にアナウンスしてもよいが、長くても60秒程度にとどめること。 【付録2、3参照】

【例34 距離を競う種目の紹介基本パターン】

- ① [場所] では、間もなく [種目] [予選/決勝] が行われます。
- ② この種目の [大会] 記録は○m○○、予選通過標準記録は○m○○です。
- ③ 出場選手を紹介します。____君、 [所属] 。
(以下順に出場選手全員を紹介)
- ④ 以上○名の出場です。

【例35 高さを競う種目の紹介基本パターン】

- ① [場所] では、間もなく [種目] [予選/決勝] が行われます。
- ② この種目の [大会] 記録は○m○○です。

- ③ 出場選手を紹介します。____君、〔 所属 〕。
(以下順に出場選手すべてを紹介)
- ④ 以上〇名の出場です。
- ⑤ なお、最初のバーの高さは〇m〇〇で、その後、〇cm ずつ上げられます。

- 〔注〕
- i スクリーンを使用しない競技会の場合は、①の後にプログラムの記載ページを入れる。
 - ii フィールド種目でもナンバーは紹介せず、名前をフルネームで紹介するケースが増えている（ナンバーを紹介すること自体は誤りではない）。
 - iii 予選で出場人数が多い場合には、選手名の紹介を省略してもよい。
例) 「男子砲丸投予選B組は、プログラム通り25名全員の出場です」
「女子走幅跳予選は、プログラム記載の3番目、8番目、16番目を除いた20名が出場します」

【例36 棒高跳の紹介例】

- ① Bゾーンでは間もなく、男子棒高跳決勝が行われます。
- ② 日本記録は澤野君の5m83、U20日本記録は江島君の5m65。
大会記録は2017年に澤野君がマークした5m80です。
- ③ 出場者を紹介します。スクリーンもあわせてご覧ください。
大崎 洋介君、日本体育大学。
土井 翔太君、三観陸協。
堀川 晴海君、陸桜会千葉。
(以下最後まで)
- ④ 以上17名です。
- ⑤ 最初のバーの高さは5m10、次は5m30、その後は10cmずつ上がります。

- 〔注〕
- i 必要に応じて、日本記録や予選通過標準記録等を示すライン、記録表示盤の位置や表示方法などについて説明する。
 - ii 競技開始の「旗上げ」と「アナウンス」の同期を取る場合には、フィールド審判員と連携し、簡潔にアナウンスする。通常は選手紹介に続けて旗上げ（競技開始の合図）をするが、競技の準備が整っているのにアナウンスとの同期を取るためだけに長時間待たせる必要はない。他の種目と重なっていたり、表彰を優先しなくてはならない場合などは、競技開始アナウンスなしに競技を始めてもらい、後から競技が開始されたことをコメントすればよい。

3 途中経過・描写等

(1) トップ8

- ① 前半の3回の試技を終えたら、迅速かつ正確な情報収集に努める。
- ② システムが使用されている競技会で、一跳一投の記録がピットで即時入力されている場合は、PCのモニター上にトップ8が確定された段階で発表してよい。また、スクリーンを使用している場合は、そこにも表示してもらおう。
- ③ システムが使用されていない（またはシステムはあってもピットで即時入力され

ていない) 場合は、事前にフィールド審判員と打ち合わせを行い、トップ8が決まった段階でアナウンスに必要な情報を伝えてもらうように要請しておくか、前半の試技の終盤になったらアナウンサー(補助員)が直接ピットに行き、トップ8の情報を収集する。その際、ワイヤレスマイクを用いてピット脇でアナウンスすれば、より迅速に発表ができる。

- ④ システムが使用されていない(またはシステムはあってもピットで即時入力されていない)場合やPCのモニターがない場合には、途中経過を含めた競技の状況を描写するために、アナウンサー(補助員)が一跳一投の記録を双眼鏡等で記録表示板を見ながら、手許のプログラムに記録する。
- ⑤ アナウンサーの人員不足で一跳一投が追えない場合や記録表示板がなく記録がわからない場合でも、トップ8の競技者名は必ず紹介する。
- ⑥ トップ8表示板(フィールド順位表示器)があればその情報も活用する。

【例37 トップ8紹介基本パターン】

- ① [場所]で行われている、[種目]決勝は、3回の試技が終了し、トップ8が決まりました。
- ② トップ8の選手を(3回目までの記録とあわせて)4回以降の投てき(跳躍)順に紹介します。
____君、[所属]、○m○○。
____君、[所属]、○m○○。
____君、[所属]、○m○○。
(以下順に紹介)
- ③ 以上の8名で、[種目]はこれから4回目に入ります。

【例38 やり投のトップ8紹介例】

- ① Aゾーンで行われている女子やり投は、3回の投てきが終了し、トップ8がスクリーンに表示されました。4回目以降の投てき順に、これまでの記録と合わせて紹介します。
- ② 佐藤さん、ニコニコのり、(3回まで) 54m94。
山下さん、九州共立大学、 55m02。
山元さん、九州共立大学、 55m96。
西村さん、三菱電機、 56m85。
上田さん、福岡大学、 57m39。
武本さん、大阪体育大学、 56m19。
斎藤さん、スズキ、 58m58。
3回が終わり、現在トップに立っているのは、北口さん、JAL、58m48。
- ③ これから4回目の投てきに入ります。
最初の投てきはニコニコのりの佐藤さんです。ここまで54m94。

【注】 i システムを使用する大会では、フィールド競技の途中経過をライブリザルトとしてスクリーンに表示することもできるので、スクリーンの表示を活用しながらアナウンスするとよい。

ii 最低でもトップ8の競技者名は紹介する。

例) 「男子走幅跳決勝、トップ8は、___大学の___君、___大学の___君 …、以上 (〇m〇〇までを跳んだ) 8名です」

(2) 途中経過の描写

- ① 競技者が助走や投てきの動作に入るまでに (砂場の整備中や投てきサークルに向かって歩いているタイミング等で)、それまでの記録や順位をアナウンスする。
走幅跳や三段跳で次の試技者が助走路内に待機している場合には、準備完了を示す白旗が振り下ろされる (またはコーンを除く) タイミングに合わせるとよい。
「次の投てきは___さんです」のように名前の紹介だけで終わらず、1回目なら資格記録、2回目以降なら1回目の記録や順位などをパッケージとしてコメントすることを心がける。
競技者が多いと同じ言い回しが続き、しつこく聞こえるので、「次の跳躍は」「続いて___さん (の跳躍)」「次に投げるのは」等、表現を工夫する。
- ② 決勝の6回目 (最終試技) はできるだけ一跳一投ごとにアナウンスする (時間に余裕があったり、他に同時進行で行われている競技がない場合は、何回目であっても積極的に一跳一投の様子をアナウンスする)。
- ③ 競技者によって試技を開始するタイミングが違うので、練習や前半の試技でその癖やパターンを観察しておくとうい。跳躍種目では制限時間を有効的に使い、投てき種目 (特に砲丸投) はサークルに入るとすぐに投てきを行う傾向がある。
- ④ 競技者の集中を妨げないように、タイミングや言葉には十分に配慮し、簡潔に表現する。試技時間のルールを理解しておく (TR25.17)。
- ⑤ 距離を競う種目と高さを競う種目では、アナウンスのポイントが若干異なる。一般的に、観衆にとって、距離を競う種目はアナウンスがないと途中経過がわからないが、高さを競う種目はアナウンスがなくても途中経過はわかりやすいことを踏まえ、観衆が知りたい情報は何かを意識したコメントをしたい。
- ⑥ トラック競技が行われている時は、トラック競技担当のアナウンサーと連携をとりながらフィールド競技の描写を行う。フィールド競技の描写の合間に、時間が来たらトラック競技を差し込む、という感覚でやるとよい。
- ⑦ 距離を競う種目で「6回目の残り2~3名、まだ優勝の行方がわからない時」や高さを競う種目で「大会記録に挑戦」といった場合には、トラック競技のスタートを遅らせてフィールド競技を優先することもあるので、その可能性がある場合は前もって出発係と無線等で情報共有しておく。
- ⑧ フィールド競技を盛り上げる観点からは、上位3人が試技を行う際は、トラック競技よりもフィールド競技を優先させることが望ましい。そのような場面での優先順位については、事前に進行担当総務員やスタートチームなどの関係部署とよく打ち合わせておく。
- ⑨ ワイヤレスマイクを活用してピットでアナウンスすると臨場感のあるアナウンスが可能になるが、他の競技の進行との関係があるので、無線等でアナウンス席と連絡が取れるようにしておく。

- ⑩ 観衆の興味を引き出すために、今シーズンの成績や過去の成績等（「日本記録保持者」「昨年の日本選手権獲得者」「〇連覇中」等）を当該競技者が試技を行う直前のタイミングで紹介するとよい。
- ⑪ 高さを競う種目でバーを落とした際には、「失敗しました」「諦めました」等とマイナスイメージのコメントはしない。むしろ「大変惜しい跳躍でした」「まだチャンスがあります」等の前向きな表現を用いる。
- ⑫ 高さを競う種目でのジャンプオフ（第1位決定戦）の考え方、バーの上げ下げ、記録の取り扱い等のルールについても理解しておく（TR26.9）。

【例39 距離を競う種目の描写基本パターン】

■ 競技開始

- ① [場所] では [種目] 決勝が競技開始です。
- ② （紹介）最初の投てき（跳躍）は、___君、[所属]。
___君の資格記録は〇m〇〇で出場者では2番目に良い記録です。
（試技～計測～記録表示）
（結果）___君の1回目は〇m〇〇。
（紹介）続いて、___君、[所属]。
以降、（試技）（結果）の繰り返し。

■ 1回目終了時

- ① [種目] 決勝は2回目の跳躍（投てき）に入ります。
- ② 1回目では [所属] の ___君が〇m〇〇をマークして、現在トップ。
次は [所属] の ___君が〇m〇〇、
[所属] の ___君が〇m〇〇と続いています。

■ 2回目終了時

- ① [種目] 決勝は2回の跳躍（投てき）が終わりました。
- ② ここまでで、現在のトップは〇m〇〇をマークしている [所属] の ___君。
- ③ これを [所属] の ___君が〇m〇〇、[所属] の ___君が〇m〇〇で追う展開です。
- ④ なお、現在の8位の記録は〇m〇〇です。
(8位の競技者名は言わなくてよい)

■ 3回目終了時

（トップ8発表 【例37】）

■ 4回目以降

- ① （紹介）次の跳躍（投てき）は、[所属] の ___君。これまでに〇m〇〇をマークして、現在、第〇位。（トップとは〇cmの差）
(【すぐ上の順位】 △位との差は〇cm)
- ② （試技～計測～記録表示）
- ③ （結果） ___君の〇回目は〇m〇〇。
（記録を伸ばして、〇位。トップとの差は〇cm）
（記録を伸ばして、順位を〇位に上げました）
< *記録が伸びなかった場合には計測結果だけ言う >

【例43 新記録誕生時のアナウンス例】 (例40を受けて)

高さの種目

- ① 跳びました！（「成功です！」など観衆の期待に応えたような言葉で）
- ② 荏田高校の江島君、5m46を見事にクリア。U18日本新記録の誕生です。

長さの種目

- ① 齋藤真希さんの5回目、ご覧のように55mラインを越えています。
(計測) 齋藤さんの持つこれまでの記録は55m41。
- ② 55m53! U20日本新記録の誕生です。

【例44 他競技との関係で描写の時間が確保できない場合のアナウンス例】

- ① トラックでは間もなく、女子1500m競走決勝が行われますが、正面スタンド前で行われている男子三段跳決勝は、このあと福岡大学の小田君、盛岡クラブの千葉君、東海ACの黒木君（2～3名程度を紹介）と続きます。
- ② それではトラック競技をどうぞ。

- 〔注〕
- i 描写の時間が十分確保できない場合には、このような言い方で観衆の注意を喚起し、時間が確保できるところで改めて描写する方法もある。
 - ii 選手が試技開始の態勢に入り、アナウンスを入れる時間がない場合には、上位選手や注目選手の試技の場合に限り、「三段跳です」「三段跳は現在1位の___さん」等の一言を挿入してもよい。

【例45 トラック競技と重なった場合のアナウンス例】

- ① 女子400mH準決勝のスタート時刻ですが、フィールド競技、男子棒高跳決勝は、さきほど5m46のU18日本新記録をマークした神奈川の江島君がこれから5m51に挑戦します。
- ② 江島君の跳躍の後、400mHがスタートします。

- 〔注〕
- i 大会記録等の好記録が期待できる選手の試技のタイミングとトラック競技のスタートが重なった場合には、フィールド競技を優先させ、トラック競技のスタートを遅らせてよい。
 - ii 無線等で出発係との連絡がとれない場合には、臨機応変にこのようなアナウンスをして全体への周知を図る。大規模大会で進行担当総務員がいる場合は、その指示に従うこと。

4 競技終了

- (1) 各競技者の最終試技が終了した時点で、それぞれの最高記録や順位をコメントする。
- (2) 全試技終了後、競技が終了したことを告げるとともに、優勝者を紹介し、健闘を称える締めくくりのアナウンスを行う。

- (3) 状況に応じて「日本新記録（大会新記録）をマークしての優勝」「2年ぶり4回目の優勝」等のコメントを挿入する。2等（位）以下の選手で、日本新記録や大会新記録等の好記録をマークしている場合も、あわせてアナウンスする。特に、U18/20日本記録などが見逃されることが多いので注意する。
- (4) 最後の試技が失敗（無効）で競技が終了した場合には、「失敗した」等のマイナスイメージの表現を避けるよう心がける。

【例46 ひとりひとりの試技終了アナウンス例】

- ① 女子三段跳決勝は6回目に入ります。佐伯さん、筑波大学、ここまで12m31。
（試技→計測）佐伯さんの6回目は12m30。
本日は（2回目にマークした）12m31で競技終了です。
- ② 次は野口さん、東京女子体育大学、ここまで12m29。
（試技→計測）野口さんは6回目、記録を伸ばして12m36で終了です。
- ③ 続いて…
（上位選手なら現在の順位や、すぐ上と僅差なら、それも言うといよい。
「現在○位、□位との差はわずか2センチです」など）
- ④ この時点で優勝が決まりました東京大学の内山さんの最後の跳躍です。
内山さんは2回目に12m86をマークしています。
（試技→計測）6回目は12m82。
本日は、東京大学の内山咲良さんが12m86で優勝です。
おめでとうございます！
- ⑤ 以上で女子三段跳決勝、競技終了です。

【例47 やり投の競技終了アナウンス例】

- ① ご覧の通り、スズキ浜松ACの新井君が、5回目に84m54の大会新記録をマークして3連覇を達成しました。
- ② 新井君、おめでとうございます。
- ③ 以上で、男子やり投げ決勝、競技終了です。

【例48 走高跳の競技終了アナウンス例】

- ① Bゾーンで行われていた、男子走高跳決勝。ただひとり2m33に挑戦した、JALの戸邊君、3回目の跳躍も残念ながらバーを落としてしまいましたが、本日は2m30をクリアし、2年ぶり4回目の日本選手権獲得です。
- ② 以上で男子走高跳、競技終了です。
- ③ 優勝した戸邊君、おめでとうございます。

〔注〕 競技終了の「旗下ろし」と「アナウンス」の同期を取る場合は、フィールド審判員と連携し、簡潔にアナウンスする。

【例49 最終競技者がファウルの場合の競技終了アナウンス例】

- ① バックスタンド前で行われておりました女子走幅跳決勝。すでに優勝を決めていた、シバタ工業の秦さんは、最後の跳躍は残念ながら赤旗でした。
- ② 秦さんは、5回目に6m40をマークして2年ぶり2回目の優勝です。
- ③ 優勝した秦さんには花束が贈られます。秦さんおめでとうございます。
- ④ 以上で女子走幅跳、競技終了です。

〔注〕 競技終了直後に花束等が贈呈される場合には、現場（フィールド審判員、報道係、彰係等）と渡すタイミングや渡す場所などについて連絡を密に行うことが必要になる。花束等のプレゼンターを紹介することもある。

5 成績発表

(1) 予選

- ① 予選通過者の発表は、プログラム記載順にアナウンスした方が聞きやすいが、記録情報処理員から回付されるリザルト用紙やスクリーンに表示されるリザルトは、記録順になっていることが多い。そのため、プログラムのどの辺りに記載があるか示しながらアナウンスするとよい。
- ② 決勝進出が12名に足りない場合は予選成績から追加補充されるので、記録情報処理員や番組編成係から回付される情報をもとに対象選手を紹介し、その理由も説明する。（TR25.15）
- ③ 予選が複数組で同時に行われる跳躍競技等では、全組が終わるのを待って通過者を確認した上で発表する。予選が行われる時間が異なる場合には、先に終了した組から通過者を発表し、最終組終了時に改めて決勝進出者全員を紹介する。

【例50 距離を競う種目の予選の成績発表基本パターン】

- ① [場所] で行われていました、[種目]、予選の結果、決勝に進出する（進む）選手を申し上げます。
- ② 予選通過標準記録〇m〇を超えた〇名が決勝に進出します（進みます）。
- ③ 予選〇組では、（記録順に、）
___さん、[所属]、〇m〇〇。
___さん、[所属]、〇m〇〇。（以下順に）
- ④ 予選〇組では、（記録順に、）
___さん、[所属]、〇m〇〇。
___さん、[所属]、〇m〇〇。（以下順に）
- ⑤ 以上〇名が、〇時から行われる決勝に進出します（進みます）。

〔注〕 跳躍競技の予選場合、予選通過者は風向風力に関係なく決まるので、風の情報は省略してよい。

【例51 走幅跳び予選の成績発表例】

- ① スクリーンをご覧ください。先ほど終了しました、女子走幅跳び予選の結果、決勝に進む選手が表示されています。
- ② 予選通過標準記録の5m40を超えたのは、予選1組では7名、2組では6名、合わせて13名です。
- ③ まず予選1組では、プログラム記載順に、
上から4番目、釣本さん、郡山南、5m83。
3番目、松村さん、TSM、5m68。
7番目、結城さん、春野、5m61。(以下順に)
以上7名が決勝に進みます。以下の記録はご覧の通りです。
- ④ (画面表示が変わったら) 続いて、スクリーンは予選2組の結果です。
- ⑤ 予選2組では…(以下略)。
- ⑥ 決勝進出は、1組・2組合わせて13名です。

- 〔注〕 i スクリーンを使用しない競技会の場合は、プログラムの記載ページを入れる。
ii 追加補充が生じた時は、その概要を先に説明する。

【例52 走高跳び予選の成績発表例】

- ① スクリーンには、先ほど終了しました、男子走高跳び予選の結果が表示されています。
- ② 予選通過標準記録 2m03 をクリアしたのは、予選1組で5名、2組で6名、合わせて11名でした。
- ③ 決勝は12名で行うことになっていますが、その人数に達していませんので、予選通過標準記録のひとつ下の高さ、2m00 (2メートル) を1回目にクリアした選手の中で、無効試技数が少ない3名を加えた14名が決勝進出となります。
- ④ 予選1組では、プログラム記載の
7番目、高橋君、盛岡南。
10番目、羽田君、新潟南。
:
31番目、岩本君、大阪桐蔭。
この5名が予選通過標準記録2m03をクリアしています。これに12番目、高橋君、東京学館船橋。2m00 を加えた6名が決勝に進みます。
- ⑤ (画面表示が変わったら) 続いて、予選2組の結果です。
予選2組では…(以下略)。
- ⑥ 決勝進出は、1組・2組合わせて14名です。

(2) 決 勝

- ① 上位の成績順に発表する。スクリーンに結果表示をしない場合は、プログラムのどの辺りに記載されているか(上から○番目等)を示しながらアナウンスをする
とよい。

- ② 2等以下は項目名「記録」等を省略し、短縮化を図る。

【例53 距離を競う種目の決勝の成績発表基本パターン】

- ① スクリーンをご覧ください。
② 先ほど終了しました〔種目〕、決勝の結果をお伝えします。（少し間を置いて）
③ 1等、(一番下)、 _____君、〔所属〕、記録 ○m○○。
2等、(上から○番)、 _____君、〔所属〕、 ○m○○。
3等、(真ん中あたり)、 _____君、〔所属〕、 ○m○○。（以下順に）
④ 以上でした。

- 〔注〕 i 距離を競う種目の順位決定のルール（TR25.22 同成績 等）をよく理解しておく。同記録の場合、対象となる競技者の2番目の記録で、それでも決まらない場合は3番目の記録で順位が決まる。
ii 何回目に投げた（跳んだ）記録かの「○回目」は省略してよい。
iii スクリーンを使用しない競技会では、風の情報をつけ加えてもよい。

【例54 高さを競う種目の決勝の成績発表基本パターン】

- ① スクリーンをご覧ください。
② 先ほど終了しました〔種目〕、決勝の結果をお知らせします。（少し間を置いて）
③ 1等、(一番下)、 _____君、〔所属〕、記録○m○○。
これは〔日本／大会〕新記録です。
2等、(上から○番目)、 _____君、〔所属〕、 ○m○○。
3等、(真ん中あたり)、 _____君、〔所属〕、○m○○。（以下順に）
④ 以上でした。

- 〔注〕 高さを競う種目の順位決定のルール（TR26.8～.9 順位 等）をよく理解しておく。
同記録者が出た場合、上位になるのは
i) 同記録になった高さでの試技数のもっとも少なかった競技者
それでも決められなかったときは
ii) 試技全体で無効試技数のもっとも少なかった競技者

【例55 走幅跳決勝の成績発表例】

- ① スクリーンには、先ほど終了しました、U20 男子走幅跳、決勝の結果が表示されています。（少し間を置いて）
② 1等、(上から 1 2 番目) 深沢君、東海大翔洋高校、 記録 7m72。
2等、 (13番目) 北川君、東海大翔洋高校、 7m51。
3等、 (9番目) 田中君、順天堂大学、 7m46。
③ 以下はご覧の通りです。

【例 56 走高跳決勝の成績発表例】

- ① スクリーンには先ほど終了しました、女子走高跳、決勝の結果が表示されています。
(少し間を置いて)
- ② 1等、津田さん、築地銀だこ AC、記録 1m78。
2等、竹内さん、大東文化大学、1m75。
同じく 2等、徳本さん、友睦物流、1m75。
4等、松本さん、甲南大学、1m75。
同じく 4等、亀田さん、鵬学園高校、1m70。
6等は 1m70 で 4名が入賞しています。
大玉さん、日本女子体育大学。
武山さん、環太平洋大学。
京谷さん、北海道ハイテク AC。
岡野さん、埼玉栄高校。
- ③ 4等から 6等までが 1m70 と同記録ですが、無効試技数により順位が決まっています。
- ④ 以下はご覧の通りです。

【例57 走幅跳決勝の成績発表例2（同記録）】

- ① スクリーンをご覧ください。
- ② 先ほど終了しました、男子走幅跳、決勝の結果をお知らせします。
(少し間を置いて)
- ③ 1等 山下君、筑波大学、記録 16m85 。
2等 山本君、順天堂大学、16m85 。
- ④ 1等の山下君と 2等の山本君は同記録ですが、2番目に良い記録で順位が決まっています。
山下君の 2番目の記録は 16m84、山本君は 16m82 とわずかの差でした。
- ⑤ 3等 岡林君、国土館大学、16m61。
4等 池端君、東海大学、15m81。
- ⑥ 以下はご覧の通りです。

〔注〕当該記録をマークした跳躍・投てきの回数（○回目）の発表は省略してよい。

【例58 棒高跳決勝の成績発表例（同記録）】

- ① スクリーンをご覧ください。
- ② 先ほど終了しました、男子棒高跳、決勝の結果をお知らせします。
(少し間をおいて)
- ③ 1等 竹川君、丸元産業、記録 5m65。
2等 江島君、富士通、5m60。
3等 石川君、東京海上日動 CS、5m60。
同じく 3等 山本君、豊田自動車、5m60。

- ④ 2等の江島君と3等の石川君、山本君は同記録ですが、無効試技の数により順位が決まっています。
(2等と3等は同記録ですが、無効試技数の少なかった江島君が2等になりました)
- ③ 以下はご覧の通りです。

■混成競技

1 全般的な留意事項

- (1) 記録とともに、その種目の得点をアナウンスする。
- (2) 合計得点を常に意識してアナウンスする。
- (3) フィールド競技の試技は3回で終了するので、可能なら一跳一投をアナウンスするよう努力する。長さの種目では、試技ごとにその記録が何点なのかもコメントする。
- (4) 手許に採点表、電卓を用意しておく。システムを使用しない大会では、アナウンス席で手書きの表や表計算ソフトを利用し、得点の管理をしながらアナウンスする。

2 紹介

- (1) 原則として1日目・2日目の第1種目と最終種目では、選手名紹介をする。
- (2) 第2種目以降の試技順またはレーン順の紹介は、1日目・2日目の最終種目以外はスクリーンを利用して省略してもよい。各種目の開始前に、それまでの総得点（「サマリー」）の上位者と得点を簡単に紹介する。
- (3) 1日目の最終種目・2日目の最初と最終種目は、全出場者をそれまでの合計得点や順位も併せて紹介する。

【例59 第1種目開始前にプログラム記載順に紹介する例】

- ① まもなく、七種競技、最初の種目、100mハードルが行われます。
- ② 日本記録はこの5月に17年ぶりに更新された5975点。本日も出場する、スズキの山崎さんがマークしています。大会記録は5962点。
- ③ 大会記録、そして日本記録の更新が期待される、七種競技です。
- ④ それでは、第一組の出場選手を紹介します。
(併せてスクリーンもご覧ください。)
- ⑤ 第1組、
第3レーン、三輪ダリヤさん、中央大学
第4レーン、泉谷莉子さん、ジーケーライン
：
第8レーン、高橋このかさん、とらふぐ亭
- ⑥ 以上、6名の出場です。

- [注] i スクリーンを使用しない競技会の場合は、①の後にプログラムの記載ページを入れる。
- ii ナンバーを省略し、名前をフルネームで紹介するケースが増えている（ナンバーを紹介すること自体は誤りではない）。

【例60 後半最初のトラック種目の紹介例】

- ① トラックでは十種競技、2日目の最初の種目（または「第6種目、」）、110mハードルが行われます。
- ② 第1日目終了時点でトップに立っているのは、第一学院高校教員の奥田で4152点。奥田は3組に出場します。
- ③ それを91点差で追うのはスズキの中村、4061点。さらに三重陸協の清水が4010点で続いています。
- ④ それでは、1組の出場者を紹介します。
2レーン、田中廉人、ドリームスポーツ。1日目を終えて3385点
3レーン、岩崎将真、中京大学。3671点・・・
（2人目以降は「1日目を終えて」は省略する）
- ⑤ 以上〇名の出場です。

3 途中経過・描写等

- (1) 途中経過・描写はトラック競技とフィールド競技のやり方に準ずるが、得点を発表する点に留意する。
- (2) 情報を受け取ったらできるだけ早く得点や合計得点を発表するが、競技日程が過密な場合や参加者が多数で時間的余裕がない場合の途中経過は、上位者だけ得点を発表し、全選手の得点はスクリーンに表示する等の工夫をしてもよい。ただし、1日目・2日目終了時には（少なくとも上位8名程度の）合計得点はアナウンスする。
- (3) 最終種目での上位争いや新記録誕生の期待がかかる時は、採点表を調べてその得点差を記録に換算した場合の「〇秒差」「〇m差」といったアナウンスをして盛り上げる。
- (4) システムを使用している競技会で、各競技者の記録・得点が即座に入手できるのであれば、最終種目フィニッシュ後、PC等のモニターを見ながら「1着___君、4分35秒13、711点」「2着___君、4分38秒51、690点」のように順次発表し、最後に「優勝は総合得点6523点___君の逆転優勝です」といったアナウンスをする。

【例61 途中経過の報例】

- ① Aゾーンでは、七種競技、第3種目の砲丸投、2回目の投てきが行われています。
- ② 次の投てきは、大玉、日本体育大学。1回目の11m17は606点。
- ③ （記録が表示されて・必要に応じ採点表を見ながら）
ただいまの大玉の記録は12m09。記録を伸ばして、61点アップの667点。
- ④ 続いて、1回目に9m83を投げている東京学芸大学の伊藤。
：

【例62 最終種目開始前の上位の得点差を交えながらの盛り上げ例】

- ① スクリーンには十種競技の第9種目のやり投を終了した時点での総合得点が表示されています。
- ② 現在、トップはスズキの中村で7082点、第2位は第一学院高校教員の奥田で7079点、その差はわずか3点です。
- ③ この3点は1500m競走の時間に換算すると、わずかに1秒。
- ④ 最後に行われる1500m競走で奥田が1秒以上の差をつけて先にフィニッシュすれば奥田の逆転勝利となりますが、800mの自己ベストでは中村が上回っています。
- ⑤ 2人の優勝争いにご注目ください。

【例63 記録の更新（新記録）誕生が期待される場合の盛り上げ方】

- ① 女子七種競技はまもなく最終種目、800m競走が行われます。
- ② 第6種目のやり投を終了した時点で、トップはスズキの山崎、5009点。自身の持つ日本記録まであと966点。
この記録の更新のためには、2分9秒93以内で走る必要があります。
- ③ 日本記録をマークした時はこの種目を2分13秒95で走っているのです、その時よりも「4秒早く走れば」と、日本新記録の誕生に期待がかかります。
- ④ この最終種目で選手が着ける胸のビブスの数字は、6種目終了時点での総合順位となっています。こちらも参考にご覧ください。
- ⑤ 出場選手を、これまでの総合得点とともに紹介します。
どうぞ大きなご声援をお願いします。
- ⑥ （紹介が終わって）800m競走スタートです。

〔注〕 最終種目では、それまでの総合得点順に特別ビブスをつけて走ることが多いので、その内容もコメントする。

4 成績発表

- (1) 成績発表の際、項目名「着」「時間」「記録」「得点」等は1位の選手のみで、2位以下は省略する。
- (2) 混成競技のフィールド種目には「等」はつけない。クスリーンには記録上位からの表示が多く、記録用紙で回ってくる場合は、試技順に並んでいることが多いので、読む前に確認する。
- (3) 最終種目終了後の総合順位、合計得点の発表の際は、1位のみ各種目の記録、得点の内訳をアナウンスするとよい。（新記録が誕生した時は必ず行う）

【例64 プログラム記載順の成績発表例】

- ① 先ほど終了した女子七種競技・走高跳の結果をプログラム記載順にお知らせします。

- ② (少し間を置いて)
- | | | | | |
|----------------|----|-------|----|-------|
| 大熊さん、東京女子体育大学、 | 記録 | 1m50、 | 得点 | 621点、 |
| 堀内さん、東京女子体育大学、 | | 1m55、 | | 678点、 |
| 高瀬さん、中京大学、 | | 1m63、 | | 771点、 |
- (以下全員)
- ③ 以上でした。

【例65 スクリーンの表示に合わせた成績発表例】

- ① スクリーンは、先ほど行われた、十種競技・走幅跳の結果です。
- ② (少し間を置いて)
- | | | | | |
|-----------------|----|-------|----|-------|
| 清水剛士、三重陸協、 | 記録 | 7m40、 | 得点 | 910点。 |
| 中村明彦、スズキ、 | | 7m36、 | | 900点。 |
| 奥田啓祐、第一学院校高校教員、 | | 7m35、 | | 898点。 |
- ③ (上位数名を発表して省略する場合) 以下はスクリーンをご覧ください。

- [注] i 記録順に発表する場合は、プログラムの記載場所(「上から〇番目」等)を加えるとよい。
- ii スクリーンを使用しない競技会では、風の情報をつけ加えてもよい。

【例66 総合成績の発表例】

- ① 先ほど終了した女子七種競技の総合成績をお伝えします。
- ② (少し間を置いて)
- 第1位、山崎有紀、スズキ、5909点。
その内訳は100mハードル13秒58、1039点、走高跳1m63、771点、
砲丸投12m21、675点…
- ③ 第2位、大玉華鈴、日本体育大学、5622点、
第3位、利藤野乃花、わらべや日洋、5364点、
(以下、入賞選手まで)
- ④ 以上でした。山崎選手、4連覇おめでとうございます!

- [注] 混成競技の記録が公認記録となるための風力の条件は、風速を計測する種目の平均秒速(個々の種目で計測された風速を合計し、これを種目数で割ったの)は2mを超えてはならない(CR31.18)。
順位がついた記録が風力の関係で参考記録の場合、風力の条件を考慮した公認記録での総合得点が記録用紙に記載されていれば、アナウンスしてもよい。

■競歩競技

1 全般的な留意事項

- (1) 競歩競技はトラック競技会と道路競技会で実施される。トラックで行う競歩競技の場合は、通常のトラック競技の長距離種目のアナウンスの方法でよい。道路競技会の場合は、距離が最長 50km ということもあり、長時間にわたることから、競技会の性格や競技の特性など、観衆が飽きずに興味を持てる様にアナウンスの内容を工夫する。
- (2) 事前に行う出場選手紹介やフィニッシュ後の成績発表等については、通常の競技会とほぼ同様のアナウンスでよい。但し、フィニッシュ後の歩型違反による失格もあるので、フィニッシュ直後に順位や記録は確定できない点に注意する。フィニッシュタイムの速報を言う場合も、レース後の集計が終わるまでは正式記録ではない旨を伝える。
- (3) 競歩競技は注目度が上がりつつあるとはいえ、競技人口が少ないこともあって、一般の審判員や観衆も競技そのものに対する理解が乏しいことから、競技規則も含めて丁寧にアナウンスする。レース途中のアナウンスで歩型のルールや、パドル、警告掲示板の説明、ペナルティゾーン適用の場合はその説明などを簡単に行うとよい。
- (4) 道路競技の場合、アナウンス体制については以下の点に配慮する。
 - ① アナウンス席の設置場所は、可能な限りスタート／フィニッシュ地点と警告掲示板が見えるところが望ましい。
 - ② レースが長時間にわたるため、アナウンサーや解説者など複数体制による対話形式が大会を盛り上げやすい（MC 担当・競技情報担当（ラップなど）・解説ができる元選手や審判経験者など）。
 - ③ コース全体にアナウンス内容が届くようにスピーカーの設置を依頼する。
 - ④ 競技中に先頭選手が歩型違反で失格になることや、複数種目が同時に行われることもあるので（例：50km の競技中に 10km がスタート）、先頭選手の把握と途中計時が難しい。トランスポンダーシステムで計時を行う大会では、ラップタイムや途中経過がわかるように、計時情報がリアルタイムで見られる PC をアナウンス席に設置するよう、事前に主催者に要請する。
 - ⑤ レース中に BGM を流したり、助力にならないレベルで競歩の技術的な解説を加えたり、大会の歴史に詳しい人物に話をしてもらうような工夫を行うとよい。
- (5) 国際大会や選手権大会等では可能な限り事前に情報を収集して、観衆の興味をひきつけるアナウンスで会場を盛り上げることが求められる。
新聞・雑誌・主催者の HP、プログラムの事前入手等により情報収集を行い、何をアナウンスするか考えておく。必要に応じて解説者等を依頼してもよい。
- (6) フィニッシュ後の優勝者のインタビューを行う場合は、歩型判定が終了し記録が確定した後に行う。

2 スタート前の紹介等

- (1) 大会の歴史や性格、歴代記録・歴代優勝者等の紹介。
- (2) 大会の見どころ（招待選手など主な出場者）、気象状況等の紹介。
- (3) 代表選手選考競技会を兼ねている競技会の場合は、選考基準や、代表に選ばれるためには当該競技会でどのような成績・記録を出す必要があるかについての解説。
- (4) 大会の概要等についてはプログラムを活用するほか、出場者の抱負等は直前に行われる招待選手の記者会見等の情報を利用する。
- (5) 国際競歩審判員（IRWJs）が担当する道路競技会の場合、スタート約 20 分前に全競歩審判員をアナウンス席前のコース上に整列させて紹介してもよい（時間に余裕がない場合は、名前だけの紹介でも可）。その際に簡単なルール解説やパドルの説明をするとよい。
- (6) 時刻規正やスタート前時間の予告等は道路競技と同じ。
- (7) 出場者多数の場合は、選手紹介は招待選手や有力選手のための紹介とし、自己最高記録やプロフィールなども手際よくコメントする。
- (8) トラックでの競歩競技は、選手紹介は長距離走と同じく、スタート前が原則。
- (9) 道路での競歩競技では、全選手をスタートラインに整列させた後、スタート 2 分前頃から主要選手数名を少し前に出させて紹介する。スタート前時間の予告の分担や選手紹介タイミングは出発係とよく調整しておく。紹介する選手に対しても、事前に紹介内容や導線を説明しておく。

3 途中経過・描写等

- (1) コースの 1 周の距離にもよるが、可能な限り 1 キロ毎のラップタイムを紹介する。
- (2) 特に先頭集団のアナウンス席から見えない場所でのラップタイム（2 キロの周回コースの場合の 5 キロのラップなど）は、無線を活用したり、トランスポンダーの計時データを PC で確認するなど、タイムリーにアナウンスできるようにする。
- (3) レース中盤以降では、日本記録や大会記録等とフィニッシュの予測タイムとの比較などを紹介する。ラップタイム換算表を準備しておく。
- (4) 先頭集団を形成している選手のプロフィールや歩きの特徴などを解説しながらレースの描写を行う（助力にならないように技術面の内容は注意が必要）。
- (5) 先頭の選手にだけ注目していると、万が一、その選手が歩型違反で競技の途中で失格となると、次に先頭になる選手（それまで 2 位で歩いていた選手）がわからなくなることがあるので、上位の複数の選手に注目すると共に警告掲示板のチェックも必要になる。レース状況は複数のアナウンサーで注視することが望ましい。
- (6) トップ選手のフィニッシュの描写については、見た通りに手許の時計とその時点で掲示板にあるレッドカード情報をアナウンスしてよいが、必ず「歩型判定中につ

き、正式結果については改めて発表する」といった注釈を加え、確定したものとしてアナウンスしてはならない。

- (7) ペナルティゾーン・ルールを適用する競技会については、ペナルティタイム等のルールを説明する (TR54.7.3~4)。

5 成績発表

- (1) 上位入賞者については、歩型違反のレッドカードが確定し、結果 (リザルト) が届き次第、速報としてアナウンスする。
- (2) 正式結果の発表はトラックでの長距離種目や道路競技と同じ。

■ 道路競技

1 留意事項

- (1) マラソン、駅伝等の道路競技会においては、通常の陸上競技会以上に競技会の性格に応じたアナウンスの内容を十分考える。
- (2) 道路競技会でも、事前の出場選手紹介とフィニッシュ後の成績発表等、通常の陸上競技会とほぼ同様のアナウンスを行うのが一般的。国際大会や選手権大会等では、可能な限り事前に情報を収集して、観衆の興味をひきつけるアナウンスが求められる。主に以下のような情報を収集する。
 - ・大会の1、2ヶ月前に発表される出場選手（招待選手）リストとそのプロフィール（プレス発表資料）
 - ・大会1週間前あたりから主催・後援新聞社等の新聞紙上やHP、雑誌等に掲載される展望記事や個別情報
 - ・大会直前に開催される招待選手の記者会見
 - ・大会のプログラム
主催・後援新聞社の記者によるレース展開予想や主な見どころの解説、大会の歴史、コースの概要等が記載されているので、主催者を通じて事前に入手
 - ・コースの特徴 等
- (3) テレビやラジオによる実況中継がある場合は、当日、競技場アナウンス席でも活用できるよう機器類を準備する（事前に主任会議等で確認し、準備されていないようであれば、アナウンサー側から要請する）。
- (4) 途中経過を描写する場合は、手許に道路地図を準備しておくとう便利である。
- (5) システムを使用する大会では、アナウンス席にPCの設置を依頼する。
- (6) フィニッシュ後に放送局が優勝者のインタビューを行う場合は、事前にタイミングや場所、音声・画像の競技場内への配信等について打ち合わせを行い、連携に漏れがないよう留意する。
- (7) 競技場のスクリーンを使用して協賛企業のCMが放映される場合やスタート前や後にサブイベントが開催される場合等については、主催者や広告代理店担当者と事前に入念な打ち合わせを行う。協賛企業の紹介などは、事前にアナウンス原稿が用意されていることがある。
- (8) 小規模大会やスタート・フィニッシュが競技場外で行われる場合には、何を・誰に対して・どの程度アナウンスするのか、主催者と事前に打合わせを行う。放送機材のチェック（マイク本数、スピーカー設置場所等）を行うことも必要になる。

2 スタート前の紹介等

- (1) 大会の歴史や性格、歴代記録・歴代優勝者の紹介、当該シーズンの他のマラソン

ンや駅伝大会の概況、大会の見どころ（招待選手など主な出場者）、コースの特徴、気象状況等を紹介する。

- (2) 代表選手選考競技会を兼ねている競技会の場合は、選考基準や、代表に選ばれるためには当該競技会でどのような成績・記録を出す必要があるかについて解説する。
- (3) 大会の概要等についてはプログラムを活用するほか、出場者の抱負等は直前に開催される招待選手の記者会見等の情報を利用する。
- (4) 観衆や競技役員の利便を考慮して、区切りのよい時刻に時刻規正を行う。時刻規正はラジオの時報等を活用するが、事前に予告（「1分前」、「30秒前」等）した上で行う。
- (5) 出場者多数の場合は、選手紹介は招待選手や有力選手のみの紹介とし、自己最高記録やプロフィールなども手際よくコメントする。
- (6) 紹介は時間に余裕をもって行う必要があるが、紹介終了からスタートまで間隔が開くと間延びするので、あらかじめ紹介アナウンスの所要時間の見当をつけておく。
- (7) 参加者が多い場合は、スタート前に「5分前」「3分前」「1分前」等の予告をする(TR55.6)。アナウンサーが担当するのはどの時間の予告までか、進行担当・スタートチーム・総務と決めておく。
- (8) 危険防止の観点から、スタート前のカウントダウンは行わないよう観衆に注意喚起する。

【例67 大会の特徴・概要】

- ① 「東京がひとつになる日。」をコンセプトに、2007年に始まった東京マラソンも、今年で20年を迎えました。2013年からはアボット・ワールドマラソンメジャーズに加入し、ボストン、ロンドン、ベルリン、シカゴ、ニューヨークシティと並ぶ、世界6大マラソン大会の一つに位置付けられています。
- ② トップアスリート、市民ランナー、車いすの各ランナーが、フルマラソンと10kmに挑戦し、それぞれのランナーが個々の目標・目的を持って走る、参加する約38,000人全員が主役になる大会です。また、約1万人の市民ボランティアが大会運営に参加し、いろいろなサポートを行っているのも大きな特徴です。
- ③ 今回の大会は、世界陸連が世界の主要ロードレースを格付けするラベリング制度で、大会規模や世界トップレベルの選手の出場、運営面での要件などを満たした、最上位の「ゴールドラベル大会」に認定されています。
- ④ また、東京2020オリンピック日本代表選手選考会も兼ねています。
- ⑤ 大会記録は、第11回大会の「東京マラソン2017」でケニアのウィルソン・キプサンゲがマークした2時間03分58秒です。

【例68 注目選手の紹介】

- ① 車いすの部の注目の選手を紹介しますと、海外招待選手では、昨年初優勝を果たした1時間18分04秒の自己ベストを持つマルセル・フグ（スイス）。昨年2位、自己ベスト1時間21分36のダニエル・ロマンチュク（アメリカ）。2016年から連続出場している、自己ベスト1時間18分04のエルンスト・バンダイク（南アフリカ）が
出場。
- ② 国内招待選手では、東京マラソン出場は6回目、自己ベスト1時間22分55の鈴木朋樹（トヨタ自動車）。2017年のロンドン世界選手権、昨年のドバイ世界選手権では800mと1500mで入賞の実績があり、持久力と瞬発力を兼ね備えた、トラックとマラソンの両方で活躍しています。
また、1時間20分52の日本記録保持者、洞ノ上浩太（Yahoo!）も出場します。東京マラソンには2007年の第1回大会からの連続出場で、2015年大会のチャンピオンです。2008年北京、2012年ロンドン、2016年リオの各パラリンピックでも入賞経験があります。

【例69 招待選手紹介】

- ① プログラム37ページには、女子の海外招待選手について記載しています。こちらをご覧ください。
- ② 招待選手は15名。その中で注目はエチオピアのルディ・アガ。昨年のこの大会で2時間20分40で優勝。世界歴代15位の2時間18分34の自己ベストを持ちます。一昨年優勝の同じエチオピアのベネハネ・ディババも出場し、優勝経験者同士の激しい争いに、2時間19分47の大会記録更新の期待がかかります。

【例70 コースの紹介例】

- ① 東京マラソンは、歴史を感じる建造物や近代的な東京の景観を楽しみながら走ることができるよう、コースを都心に移し、東京を象徴する新しいものへと生まれ変わりました。その生まれ変わった新しいコースをご紹介します。
- ② 新宿の東京都庁前をスタートし、靖国通りから外堀通りに入り、東に向かいます。
5キロで30mほど下がる緩やかな下り坂です。
飯田橋で目白通りに入り、「世界最大の本の街」とも呼ばれる神保町を抜けた後、日本の道路網の始点、国の重要文化財・日本橋を渡ります。
その日本橋を過ぎたところが10キロ。
安産の神様として有名な「水天宮」を過ぎ、江戸通りを北上すると「スカイツリー」をバックに「浅草寺 雷門」が正面に見えてきます。その「雷門」近くが15キロ。
……
- ③ 35キロ地点を過ぎて、高輪で最後の折り返し。赤穂浪士のお墓のある「泉岳

寺」、徳川家菩提寺の「増上寺」、東京タワーを左に眺めながら、40キロ地点を過ぎ、

日比谷交差点まで戻ると残り約1キロ。

- ④ オフィスビルの中の街路樹がきれいに並ぶ「丸の内中通り」を抜けると、フィニッシュ地点。42.195キロを走り終えた先で、東京駅がランナーを迎えます。

[注] 競技場発着でスクリーンを使用できる場合は、コースの地図やイラスト等と合わせてアナウンスするとよい。

3 途中経過・描写等

- (1) 競技場をスタートする場合は、トラックを周回して道路に出るまでの間、改めて見どころ等を簡単に紹介する。
- (2) 同一競技場発着コースなど観衆が競技場で競技者のフィニッシュを待つような場合は、各関門等から情報収集を行い、レース展開や途中時間を適宜紹介する。また、テレビ等の中継やwebサイトでの配信がある場合は、これらの情報も活用する。
- (3) フィニッシュでは、最後の力走をする競技者の描写に加えて、レース経過、日本記録や競技者の自己最高記録との比較等を紹介して盛り上げる。

【例71 フィニッシュの描写例】

- ① フィニッシュ・テープを最初に切るのはケニアのウィルソン・キプサンゲ。最初の5キロを15分15秒で入り、30キロまでは15分30秒～40秒のペースで進み、35キロ過ぎからはややペースが落ちたものの、序盤から世界記録も狙えるハイペースで走り切り、間もなくフィニッシュです。
(フィニッシュ後)
- ② キプサンゲ、手許の時計で国内最高記録の2時間03分58秒。世界歴代8位相当の記録で、見事、優勝です。

4 成績発表

- (1) 上位入賞者については、結果（リザルト）が届き次第、アナウンスする。
- (2) スクリーンを使用しない場合は、観衆がプログラムに記入しやすいよう、プログラムのページ、プログラムのどの辺りに記載されているかも含めてアナウンスする。
- (3) 結果（リザルト）に関するアナウンス内容は、トラック競技の長距離種目の成績発表と同じ。好記録が出た際には、その内容もコメントする。

■表彰・式典

表彰・式典は競技とは別の観点で注目度も高く、細心の注意を払い、誤りのないように十分に注意する。

1 共通事項

- (1) 必ず原稿を作る。特に開閉会式や栄章授与式は丁寧に対応する。
- (2) 受賞者の名前、所属の読み方を確認し、原稿には振り仮名をつけておく。受賞者の過去の優勝歴（受賞歴）や他種目の入賞状況等を調べ、コメントできるように準備しておく。
- (3) 表彰者（プレゼンター）の氏名、肩書、読み方を確認する。表彰者の立場によって、肩書等の言い方、敬称の有無が異なる。
 - ① 所属は氏名の前につけ、肩書の位置はケースバイケース(主催・共催者)
「所属＋氏名＋肩書」 例) 公益財団法人日本陸上競技連盟 尾縣 貢 会長
「所属＋肩書＋氏名」 公益財団法人日本陸上競技連盟会長 尾縣 貢
 - ② 所属と肩書をつつとして紹介する場合は名前の後につける(主催・共催者)
「名前＋肩書」 例) ○○△△文部科学大臣、△△○○東京都知事
 - ③ 名前の後に敬称が必要な場合もある(協賛者・来賓)
「所属＋肩書＋氏名＋敬称」
例) 本大会に協賛いただいております○○産業株式会社
代表取締役社長 △△△△ 様
 - ④ 複数の肩書がある場合でも一つだけを紹介することとし、事前に本人(又は関係者)にどの肩書で紹介すればよいか確認しておく。
 - ⑤ 現役または元日本代表選手等が務める場合には、その趣旨を考慮し、戦績やプロフィール等も紹介する。
 - ⑥ 「表彰は○○が行います」「表彰者は○○です」「プレゼンターは○○です」や、「花束は○○が渡します」「花束授与は○○です」「フラワープレゼンターは○○です」等いろいろな言い方があるが、同一大会ではアナウンサー全員で統一する。
 - ⑦ 記録(数字)の言い方は、P.5～6に記載の内容に準ずる。
- (4) 音楽を使用する場合
 - ① 事前に曲を聞き、音量を調整する。曲のどのあたりから話し始めるかを確認する。
 - ② 音楽担当がいれば、原稿をもとに音楽をかけるタイミング等を打ち合わせておく。
 - ③ 使用する音楽の著作権を確認しておく。特にテレビ等の中継やライブ配信等のある大規模大会では注意する。
- (5) スクリーンを使用する場合には、スクリーンにタイトルや成績等を出すタイミングを電光掲示（大型映像）係と事前に打ち合わせておく。また表彰時に入賞者やフィニッシュ時の映像（リプレイ）を映せばより効果的である。
- (6) 報道関係者が場内に入ることが多いので、必要に応じて報道係とも連携する。

2 表彰

- (1) 表彰は成績発表後に行う。
- (2) 決勝リザルトは別に整理しておき、いつでもアナウンスできるようにしておく。
- (3) 他の競技の進行状況を見ながら、表彰実施のタイミングをよく考え、受賞者を長時間待たせないようにする。
表彰係が受賞者に対し、表彰の準備が整う時間に集合するよう指示することが多い。
- (4) 表彰係との連携
 - ① 入賞者の表彰台への誘導の仕方、表彰する順番（1位からか、3位からか。リレーは一人ひとりか、代表者か）、渡すもの（賞状、メダル、優勝杯）、渡す順序、部旗の掲揚、退場の流れ等、表彰のやり方について事前に十分に打ち合わせをしておく。
 - ② どの種目をどのプレゼンターが担当するのか、プレゼンターの所属や肩書、優勝杯（盾）等の寄贈者名等のリストを作成してもらう（ふりがな付）。
 - ③ 準備が整ったら無線等で連絡をしてもらい、アナウンサーの指示のもと、表彰を始める。
- (5) 単独種目で3位まで表彰を行う場合、開始アナウンス～関係者入場～表彰～終了アナウンスまで、1分30秒程度が目安となる。

【例72 インターハイの例】

- ① メインスタンド前では、女子ハンマー投の表彰が行われます。
- ② 表彰は、（都道府県）高等学校体育連盟陸上競技専門部_____部長が行います。
- ③ 第1位、奥村梨里佳さん、添上高等学校、56m79。大会新記録での優勝です。賞状、メダルが贈られます。
- ④ 第2位、勝治 玲海さん、安芸高等学校、53m53。
第3位、稲垣 愛結さん、花輪高等学校、53m15。
第4位 木下 七海さん、旭野高等学校。
（4位以下は記録を省略し時間短縮を図ることも可）（以下8位まで）
- ⑤ 優勝いたしました奥村さんの栄誉をたたえ、「高体連の歌」を演奏し、添上高等学校の校旗を掲揚します。掲揚台にご注目ください。
- ⑥（演奏終了後）元の位置にお戻りください
- ⑦以上で女子ハンマー投の表彰を終わります。おめでとうございます。

【例73 日本選手権の例】

- ① ただ今から、男子3000m障害の表彰を行います。（関係者入場開始）
- ② 賞状、選手権章プレゼンターは、公益財団法人日本陸上競技連盟理事、鈴木一弘競技運営委員長です。
またフラワープレゼンターは（小学校名など）_____さんです。

(関係者が表彰台の前に整列したら)

- ③ 第3位、青木 涼真君、Honda、 8分20秒70。
第2位、川口 浩勢君、愛三工業、8分19秒96。
選手権獲得者は、三浦 龍司君、順天堂大学、8分15秒99。
見事な日本新記録での優勝です。
- ④ 以上で男子3000m障害の表彰を終わります。おめでとうございます。
スタンドの皆さん、もう一度、大きな拍手をお願いします。

- [注] i 入賞記録を紹介する際には、装飾語をつけすぎないように注意する。
ii 表彰対象者の記録までアナウンスした後に、授与されるもの（賞状、選手権章、メダル、花束、記念品等）の紹介をしてもよい。
例) 優勝した____君には、賞状、選手権章、協賛いただいております
○○株式会社よりご提供いただきました記念品が贈られます。
iii プレゼンターが一つ前の順位の選手に賞状等を渡した後、移動するタイミングを見ながら、次順位の選手の表彰コメントを始める。

3 式典

- (1) 式次第を必ず用意する。主催者が用意していることが多い。
- (2) 事前確認
＜開会式＞
・優勝杯（盾）返還の際のレプリカの有無
・選手宣誓の際のマイクの位置は誰が移動するか
・参加校の部旗の旗手の集合の有無 等
＜閉会式＞
・対校戦等の表彰内容、表彰方法
・優秀選手賞がある場合は、該当選手の氏名（ふりがな）、所属、種目、記録等の記載されたリスト 等
- (3) 式典の中で挨拶をする人が続く場合は、前の人が元の位置に戻ったのを確認してから、次の人の紹介を始める。
- (4) 小規模大会では選手の整列の指示からアナウンサーが行うことが多いので、式の準備状況を確認して、そのタイミングを図る。
- (5) 国体やインターハイのように式典参加者が多く、長時間にわたって行われる場合は、アナウンサー2名体制で交代しながら行ってもよい。
- (6) 秩父宮章授与式のように受賞者が多く、一人ひとりを紹介しながら表彰が行われる場合は、横にアナウンサーがもう一人付いて合図をし、タイミングがずれることのないよう、受賞者を間違えることのないようにするとよい。
- (7) 式典終了時の結びの言葉・式典参加者を解散させる際の言葉も工夫する。
例) 「以上で開会式を終わります。皆さん、競技の準備に入ってください」
「以上で閉会式を終わります。最後に皆さんの健闘をたたえ合い（今後の更なる活躍をお祈りして）、拍手で解散とします。お疲れ様でした」

■その他のアナウンス

競技運営上、必要な連絡事項や場内への注意喚起等が必要な場合は、簡潔にわかりやすくアナウンスする。

1 アナウンス要領

【例74 時刻の規正】

あと1分で9時になります。役員・選手の皆さんはお手許の時計を確認ください。ただいま9時です。本日はこの時計で競技を進行させていただきます。

- [注] i 競技開始1時間前、30分前のように切れ目のよい時刻に行く。ラジオ、携帯電話を使用するとよい。
- ii 規正を行う時刻の30秒前から電話の時報やラジオの音声をマイクで拾いながら流してもよい。

【例75 定時気象観測】

12時現在のグラウンド・コンディションです。
天候、晴れ。気温、23度。湿度、45%。北北西の風、1.5mでした。

- [注] スクリーンに表示する場合は、タイミングを合わせてアナウンスする。

【例76 競技日程の変更】

競技日程の変更の連絡をします。10時30分に予定されていた男子4×100mリレー予選は、出場チームの関係で行わないことになりました。
決勝は予定通り13時30分から行います。

- [注] スクリーンを使用する際は、情報を文字情報として表示してもらうとよい。

【例77 閉会式の連絡】

間もなく閉会式が行われます。
各校の皆さんは、開会式と同じ隊形で整列してください。

【例78 競技開始前の練習（投てき種目）】

危険防止のため、投てき種目の練習は必ず競技役員の指示に従って行ってください。

【例79 危険防止の呼びかけ】

間もなくフィールドでは、ハンマー投決勝が始まります。ハンマーの行方には十分気をつけてください。

また出場選手の皆さんは、競技役員の指示に従って練習を行ってください。

【例80 選手呼び出し】

選手のお呼び出しです。男子 100m競走予選 3組 4レーンを走りました

〇〇君、至急、本部までおいでください。

【例81 被表彰者の呼び出し】

各種目の決勝で第3位までに入賞した選手は表彰を行いますので、競技終了後、直ちに本部表彰係までお越しください。

【例82 ハードルのセッティングの協力依頼】

次のトラック競技は男子110mハードルです。お手すきの役員・補助員の方はハードルの設置にご協力ください。（終了後であれば「ハードルの撤去に」）

【例83 遺失物のお知らせ】

落とし物のお知らせです。フィニッシュ付近にスパイク・シューズが落ちていました。

心あたりの方はアナウンス席までお越しください。

[注] 拾得物の管理場所（アナウンス席、大会本部、T I C等）は大会に応じて。

【例84 車の移動】

次の車は大至急、移動願います。正面玄関前に駐車している

赤の（車種）練馬、え、300、55-44。大至急移動願います。

[注] 車種と色をアナウンスするとわかりやすい。

【例85 競技会のPR】

ご案内します。来る6月24日から27日に大阪・ヤンマースタジアム長居で、第105回日本陸上競技選手権が行われます。日本を代表する選手や世界で活躍するトップクラスの選手が、多数出場します。

多くの皆様のご来場をお待ちしています。

【例86 プログラムの販売】

ご案内します。プログラムを500円で販売しています。ご希望の方は正面玄関でお買い求めください。

〔注〕 販売場所（正面玄関前、受付、大会本部、T I C等）は大会応じて。

【例87 競技場美化のお願い】

スタンドの皆様をお願いします。ゴミは各自、お持ち帰りください。
競技場の美化へのご協力、よろしくお願いします。また、帰る途中の駅のゴミ箱などへ捨てることのないよう、必ずご自宅までお持ち帰るようお願いいたします。

【例88 競技結果のネット配信の紹介】

本日の競技の結果は、ウェブサイトにも掲載しています。
プログラム〇ページにあるQRコードからアクセスすると、ご覧いただけます。
（または）
プログラム〇ページにURLが記載されています。ご利用ください。

IV 研究編

1 競技会の性格や規模に応じたアナウンスのあり方

陸上競技会はシーズンを通じて数多く開催されるが、それぞれの競技会の性格や位置づけ、規模、目的等に応じたアナウンスが必要になる。

最近ではE P（イベント・プレゼンテーション）の一端を担う大きな役割も求められている。

(1) 記録会

- ① 出場者・組数が多いが故に、アナウンサーの基本動作の良し悪しが問われる。
- ② 出場者が多く、競技日程通りに競技会を進めていくことに気をとられ、単調なアナウンスになりがちだが、アナウンス内容を取捨選択することで描写を行う時間を増やす等、盛り上げるための工夫を行う。
 - ・トラック競技の参加者が多い場合は組数、人数の紹介のみにとどめる。
 - ・結果発表は1着（1等）のみを発表し、2着（2等）以下は掲示板を見てもらう等の便宜的方法をとる。
 - ・フィールド競技の各ラウンド終了時点での上位選手と記録を紹介する。

(2) 小中学生・定通制大会等

- ① 競技会に不慣れた選手・チーム関係者が多いので、全般的に懇切丁寧にアナウンスする必要がある。
- ② 招集時刻、招集場所など競技注意事項に記載されている事項であっても何回かアナウンスして、保護者や引率者への周知徹底を図る。
- ③ 小中学生大会は、陸上競技の普及・強化の観点から重要な位置づけにあり、「全国大会で名前が呼ばれた」「陸上競技で頑張った良かった」「これからも続けたい」と思わせるようなアナウンスが求められる。選手の記憶に残る盛り上げも大事な要素であり、可能な限り予選から氏名を紹介する等の配慮も必要になる。

(3) 選手権大会

- ① 日本選手権、グランプリ大会等はトップクラスの選手出場し、ハイレベルな争いになる。観衆の記録への期待も大きく、「選手と観衆の一体化」を意識したアナウンスが求められる。主催者や進行担当の方針によっては、選手には敬称をつけなかったり、オーソドックスな用語や通常スタイルとは違うアナウンスを求められることもあり、柔軟に対応できる姿勢が必要となる。【付録1参照】
- ② 好記録も期待できることから、あらゆる場面を想定した入念な準備、大規模大会ならではの関係部署との緊密な連携が必要になる。
- ③ 競技日程を遵守する必要があるが、好記録が出た際のフィールド競技とトラック競技の兼ね合いや、表彰、トップ8の発表タイミング等、複雑で高度な判断を求められることが多い。

(4) 対校戦

- ① 対校戦は2チーム（校）の対抗で行われるもの（例：早慶戦）、数チーム（校）が集まって行われるもの（例：インカレ）がある。各種目の順位で得点を決め、

その総合得点で勝敗や順位を決めるため、選手個々の成績もさることながら対校得点争いに重きが置かれる。アナウンスに際しては、特定のチーム（学校）に偏った内容にならないよう注意する。

- ② 各種目の結果発表の際には得点を発表する。得点累計を手許で集計するように心がけ、途中で対校得点（累計点）を発表しながら盛り上げていく。

【例89 得点発表例】

- ① この結果、この種目の対校得点は、___大学〇点、___大学〇点、___大学〇点です。
- ② ここまでの総合得点は、___大学〇点、___大学〇点、___大学〇点、___大学〇点となります。

- ④ 特に最終種目で優勝が決まる場合は、最終種目開始前に得点累計を発表し、最終種目の順位が優勝争いにどのように影響するかについても解説する。

【例90 最終種目開始前の得点経過紹介例】

- ① ここまでの総合得点は、筑波大学が96点でトップ。続いて2位が順天堂大学で95点、その差はわずかに1点です。
- ② 優勝種目数は、ここまで筑波大学、順天堂大学ともに6種目。
- ③ 従いまして、最終の1600mリレーで、筑波大学と順天堂大学のうち先にフィニッシュした方が総合優勝となります。

- ⑤ 対戦成績（過去どちらが何勝しているか、去年はどちらが何点で勝利を収めた等）を整理して随時アナウンスするほか、大学記録や出場選手の自己ベスト等の情報を事前に入手して、得点争い以外の話題も提供するとよい。

(5) 国体

- ① 全国規模の競技会でさまざまな観衆が観戦する。初めて陸上競技を観る観衆も多いことから、種目の解説やルール、出場者のプロフィールまで平易な言葉で丁寧に解説する必要がある。
- ② 都道府県対抗のため、公平なアナウンスを心がけることが基本だが、小学生などがスタンドに見学に来ていたら、レース中・試技中の地元選手のナンバーやユニフォームの色、応援の仕方などを紹介することは、大会を盛り上げる意味でも、小学生などにも競技に興味を持ってもらう観点からも有意義である。
- ③ 公認マスコットが登場し、余興的なイベントの進行を務めることもある。

(6) 国際大会

- ① 出場選手は世界のトップクラスであり、観衆も世界レベルの競技を堪能したいとの意識が強い。
- ② 国際ルールが適用され、テレビ中継が入る等、通常の競技会運営とは異なるので、関係者間での入念な準備が必要になる。
- ③ 出場選手のプロフィール等、事前に調べたことを全て話したくなるが、アナウンサーの余計な解説や描写が邪魔になる場面もある。「競技を見せる（魅せる）」

ことを意識する。

- ④ 外国人アナウンサーが入る場合、（日本語で）話せる時間が短くなり、連携も難しくなるが、進行担当総務員や EPM（イベント・プレゼンテーション・マネージャー）の指示に従ってコンパクトなアナウンスを心がける。
- ⑤ 外国語が話せなくても、外国人アナウンサーとは単語を並べ、身振り手振りである程度の意思疎通はできるので、過度に心配する必要はない。
- ⑥ プロのアナウンサーが入り、対話形式で見どころや解説、競技の描写を行うこともある。
- ⑦ 外国人選手が出場することから、選手名は敬称略。「(3)選手権大会」で述べたように、オーソドックスなアナウンス用語やスタイルでは場にそぐわないこともあり、スピード感のあるアナウンスが求められる。アナウンスの基本を意識しつつ、柔軟に対応できる姿勢が必要となる。

(7) 室内大会

- ① 観客が競技者を近くで見ることができるといった特性を生かし、種目の解説や技術、選手の経歴等を紹介して大会を盛り上げる。
- ② 室内競技のルール、屋外で行う競技のルールとの違いも理解しておく。
- ③ 音響効果が屋外に比べてよいので、音量や共鳴等を考慮したアナウンスを行う。

2 競技会ディレクターとしてのアナウンサーの役割

大規模競技会では進行担当総務員が配置され、競技進行の全体調整を行うようになった。一方、進行担当総務員が配置されない大会では、トラック競技とフィールド競技のどちらを優先するか、表彰をどのタイミングで入れるか等についての状況判断をアナウンサーが行っており、事実上、進行担当総務員の役割を果たしている。

(1) 連携

- ① アナウンサーは競技会全体に気を配り、目の前の状況を注意深く観察するとともに、次の展開を予測して先を読んだ適切な判断が求められる。
- ② 関係部署とアナウンサーが主要部署と直接コンタクトできる体制（無線配置等）を作る。
- ③ アナウンサーから関係部署に対する一方的な指示ばかりではなく、双方向のコミュニケーションを重視する。
- ④ アナウンサー間でも声をかけ合い、相互連携に留意する。
- ⑤ どのような場面で何を優先させるか等の判断は、マニュアル化できるものではなく、その場で臨機応変の対応が求められる。基本的な考え方やよくある事例への対応方法は関係部署間で認識を合わせておきたい。

(2) 事例

- ① 表彰とトラック競技スタートの重複
 - ・表彰を行うタイミングは、トラックで長距離種目が行われていたり、スタート準備完了前（スターティングブロックの調整中やスタート練習中）に行うことが多い。
 - ・3位までの表彰であれば、所要時間は1分30秒程度が目途となる。

- ・通常は、事前に無線で出発係等の関係部署へ表彰を行う旨を連絡するが、関係部署へ個別に連絡する時間的余裕がない場合は、「男子 400m 競走決勝の前に、メインスタンド前で、女子走幅跳の表彰が行われます。期待のトラック競技はその後です」等のアナウンスで全体に周知する。
- ② 表彰や結果発表と長距離種目レースの重複
 - ・1000m 単位のラップタイム発表直後に表彰や他種目の結果発表を始める。
 - ・決勝レースの後半や、レースが白熱している場合には、観衆の意識をレースに集中させるよう、表彰や結果発表は行わない。
- ③ 好記録誕生と表彰や結果発表の重複
 - ・好記録が誕生して場内がその余韻に酔っているような場合、他種目の結果発表や表彰を行うには注意を要する。直後に無節操なアナウンスをすると、せっかくの盛り上がりにも水を差すことになる。
- ④ フィールド競技の重複
 - ・複数のフィールド競技が同時進行する場合、どのタイミングでどちらを重点的にアナウンスするかを選択する必要性が生じる。
 - ・注目選手の試技を別にすれば、メリハリなく複数の競技を短時間で交互にアナウンスすると観衆は混乱し、選手の意識の集中にも悪影響を及ぼす。
 - ・長さを競う競技は「1～3 回目の試技までは各ラウンドが終了したタイミング」で、高さを競う競技は「バーが上がるタイミング」で重点的に経過や状況を説明するとよい。
 - ・長さを競う競技の「6 回目の試技」や、高さを競う競技で「残りの人数が 2～3 名」になった時はその競技の描写を優先し、他のフィールド競技のアナウンスを控える。
 - ・フィールド競技前半で複数種目の描写を続ける場合には、「3 名程度の A 種目の描写」→「3 名程度の B 種目の描写」とした方がよい。トラック競技（短距離）を挟む場合でも「トラック 1 組→フィールド A→トラック 2 組→フィールド B」とした方が、観衆には注目すべき競技がわかりやすく、ストレスなく聞くことができる。
 - ・有力選手の試技が重なった場合や、複数の競技で好記録が期待される展開になった場合には、異なる競技について描写する時は、「一呼吸」入れてから話し始める。
 - ・いずれの場合も、冒頭に「種目名」を入れて話し始める。

3 競技場の設備環境に応じた工夫

(1) システムの活用

- ① 大規模競技会ではアナウンス席に PC が配備され、リアルタイムな途中経過等の情報を PC で見ることができるようになった。PC の内容を手許のプログラムに書き写すことはしない。急を要するコメントに対応できない上、書き損じの恐れがある。PC を使いこなしてアナウンスすることが求められる。
- ② 次ラウンド進出のプラスの選手の発表等、発表すべき情報の見落としや読み落としがないように、チェックリストを用いて管理するとよい。特に抗議に備え、結果の発表時刻はアナウンサーが控えておく。

- ③ トラック競技では2着以下の記録も順次表示されていくので、「2レーンの____君も日本新記録をマーク」「3レーンの____君もA標準記録突破」といったコメントは即座にアナウンスするようにしたい。
- ④ フィールド競技では現地でリアルタイムに情報が入力されていれば、計測の都度、記録表示が変わるので、フィールド競技の描写中に記録が伸びたり順位が逆転したら、すぐにアナウンスする。

(2) 競技場の形状を考慮したアナウンス

- ① 大規模なスタンドがあり屋根がついているような場合には、アナウンスの声が反響して競技者や観衆の耳に届く。話すスピードや、言葉と言葉の間の「間」が特に重要になる。早口のアナウンスでは何を話しているのか、聞き取れない。
- ② 競技場の構造、設備、音量等を十分理解して、競技場内の各所でどのように聞こえるかを競技開始前にチェックする。曲走路付近ではアナウンスが聞き取り取りにくいことが多い。
- ③ 天候（主に気圧、湿度）や入場者数によっては同じ音量（声量）でも伝わる距離や聞こえ方が異なる。複数日で行われる競技会では、前日と同じように話しても観客席では異なって聞こえることがある。
- ④ アナウンス席は競技場全体が見渡せる場所に設置することが望ましい。
- ⑤ ワイヤレスマイクが準備できれば、フィールド競技のピットから直接アナウンスしたり、表彰アナウンスを表彰台の近くで行う等の工夫ができ、より臨場感のあるアナウンスが可能になる。

(3) スクリーンの活用

- ① スクリーンは音声による情報伝達のアナウンスとは異なり、視覚を介した情報伝達であることから、観衆がそれに注目しなければ情報は伝わらない。情報が表示された旨をアナウンスでフォローすることが必要であり、大型映像（電光掲示）係と十分な連携をとる。
- ② 選手紹介や下位記録の発表をスクリーンのみでの表示として、アナウンスの省力化を図ることもできる。文字やイラストで表示した方がわかりやすい情報もある。

4 競技会を盛り上げるために

- (1) 国体、国際大会等いろいろな観客が集まる競技会では、陸上競技ファンを作り、陸上競技の理解を深めてもらうために、各種解説を行うことが求められる。
 - ① 種目について
種目の特性、技術（ハードル、障害物競走、競歩、リレー、走高跳、棒高跳、ハンマー投）等
 - ② 競技場について
全天候舗装、スタート位置 等
 - ③ 器具、器材について
タイマー、光波計測機、途中経過表示装置、砲丸、ハンマー、やり 等
 - ④ 選手について
自己記録、経歴、技術 等
 - ⑤ 見どころ
出場選手の過去の成績、記録、プロフィール 等

- (2) さまざまな情報を集め、その中のエッセンスを話すということを意識する。何日も前から準備をしてきたのに実際にはほとんど話せないということが現実だが、情報がなければ何も話せない。競技会の流れに乗って、話す内容を取捨選択することも必要になる。競技会は、自分（アナウンサー個人）の知識を披露する場ではないということをお腹に銘じておくこと。
- (3) インターネットを通じて記録、ランキング、過去の対戦成績等の情報収集は可能であり、選手個人や所属チームのHP等にはより詳細な情報も公開されている。
(参考) 「陸マガランキング」 <https://rikumaga.com/top> <有料サイト>
- (4) ワイヤレスマイクを持ってピット脇で競技の描写を行う際には、競技の妨げにならない程度に、選手本人から情報を聞き出すこともできる。
- (5) 各種情報は「見どころ」として競技の合間やスタート前にアナウンスする等、伝えるタイミングも意識する。
- (6) アナウンサーが無理に盛り上げようとせず、観衆に注目させたい場面にうまくフォーカスさせるコメントや、タイムリーな情報提供を工夫したい。時には事実のみを淡々と伝える、静寂の時間を設けることも効果がある。

5 フィールド競技の描写を充実させるために

「アナウンスがトラック競技に偏りがちである」という指摘は多く、フィールド競技の描写の充実はアナウンサーにとっての大きな課題である。本冊でも「Ⅱ 基本編」で「トラック競技偏重を避けるためには」としてこの問題に触れているが、ここでは「フィールド競技の描写を充実させる」という観点から対応方法をまとめた。

- (1) 種目の重複時の対応
 - ① トラック競技を優先しがちだが、「トラック競技予選よりはフィールド競技決勝優先」「同じ決勝でも好記録挑戦時はフィールド競技優先」等の考え方を統一しておく。
 - ② 複数種目が同時に実施されることが多いので、種目ごとに専担のアナウンサーを配置する。
 - ③ 競技開始が同時刻の場合でも、練習が先に始まった種目や砲丸投のように競技開始が早まりがちな種目から順次、選手紹介を行うとよい。
 - ④ 自分の担当種目だけに集中せず、他種目の進行状況も把握し、どの競技を優先してコメントするかをアナウンサー間で常に意識し合う。マイクに向かってしていると担当種目が中心のような気持になるが、全体をよく見て、どの種目が注目度が高いのか常に意識する。
 - ⑤ その時間帯に担当からはずれている他のアナウンサーが競技進行全体に目を配り、「トラックは選手がスタートラインに出てきた」「フィールドは〇〇が大会記録へ挑戦」等の声をかけるとよい。
同一アナウンサーが集約して競技の進行状況を紹介する方がよい場合もある。
 - ⑥ 助走路としてトラックまで使用する走高跳・やり投とトラック全周を使うトラック競技のスタートが重なる場合は、フィールド審判員やマーシャルもスタート時間とフィールド競技の試技時間に注意を向けているので、出発係とも無線で連絡

を取りながら状況確認をする。

- ⑦ 可能であれば、アナウンサーの立場からフィールド競技の紹介や描写がしやすい競技日程（競技開始時刻が重ならないような日程等）を組むよう、競技会の要項作成やプログラム編成を行っている準備段階で主催者に依頼してもよい。

(2) 機器に関して

- ① 一跳一投の描写を行うために競技の進行をリアルタイムで把握できるよう、アナウンス席にはアナウンサーの人数分のPCが配置されることが望ましい。
- ② システムの使用がなくても、競技実施場所に配置された記録表示器やトップ8板を有効に利用して描写する。
以下のような問題が起こらないようにするためにも、事前にフィールド審判員と十分な打ち合わせを行う。
 - ・補助員、審判員が記録表示器の前に立つため、記録が判読できない
 - ・記録表示器がアナウンス席から見えない
 - ・表示される記録が、瞬時のうちに消えてしてしまう。回転が早すぎる
 - ・記録表示器があるのに使用されない
 - 役員不足でなければ担当者をつけてもらうよう依頼する
- ③ アナウンサーとフィールド審判員との間に無線等による連絡手段を確保する。
- ④ システムを使用しない大会では、ワイヤレスマイクと無線を持ち、積極的にピットの近くで描写を入れる。

(3) 他部署との連携

- ① 競技開始合図のタイミング
 - ・競技開始時間がトラック競技のスタート時間と重なっている場合は、タイミングよくフィールド競技の紹介ができるよう、出発係との連携を心がける。
 - ・アナウンサーに何の連絡もないままに予定時刻より早く競技が開始されることがあるが、フィールド審判員からも連絡が入るよう連携を密にする。
 - ・フィールド競技の準備ができていようであれば、総務や審判長の了解の下、早目に競技を開始してもらうこととし、トラック競技のスタートと重ならないタイミングでフィールド競技の選手紹介を行う。
- ② 呼び出しのタイミング
 - ・特に砲丸投では、前投てき者の記録が表示されて記録表示器が1回転している間に（電光掲示盤に表示されるか、されないかのタイミングで）、次の投てき者が呼び出されて試技が行われることがある。フィールド審判員に記録表示器が1回転する（電光掲示盤にきちんと表示される）のを確認してから、次の投てき者を呼び出すよう要請しておく。

【参考】 イベント・プレゼンテーション・マネージャー（EPM）

EPMはCR17〔国際〕に以下のように定められ、国内では「世界陸上2007（大阪）」で初めて配置・運用された。その後も国内で開催される国際大会で設置されるようになった。今後は国内大規模大会でも配置されることが考えられる。

【CR17】

イベント・プレゼンテーション・マネージャーは競技会ディレクターと共に競技会の各種目やその他の演出準備を組織代表および技術代表と協力して計画する。また、その計画が達成されるよう、競技会ディレクターおよび関係する代表と協力して関連する諸問題を解決する。イベント・プレゼンテーション・チーム内の連携についても、情報伝達システムを利用して監督する。

また、WA Technical Delegate Guideline（2020/2）では、EPについて以下のように定義しており、その役割が「『観衆の目線に立って』競技会をいかに盛り上げていくか」にあることを理解する必要がある。

但し、競技会の主役はあくまでも競技者であるので、観衆視点に寄り過ぎないことを念頭に置いておくこと。

Event Presentation (or Sport Presentation as it is sometimes referred to) aims to Educate, Engage and Entertain live audiences at athletics meetings.

（意識）

EPは競技場でナマで競技を観戦する観衆が

①競技を理解し、②一体感を覚え、③楽しんでもらう ことを目的とする

(1) EPMの役割

EPMの役割については、「音楽や映像を使って競技会を演出する仕事」と国内では理解されやすいが、実際にWAが求める職務内容は広範囲かつ専門的な内容に踏み込んでいる。

- ① 「イベント・プレゼンテーション基本計画（EPプラン）」の策定
 - ・場内アナウンス、進行連携（TV放送・表彰・タイムテーブル管理）、電光掲示板、映像、スコアボード、場内音楽、各種プロモーション、場内リスク管理等を織り込んだ「プレゼンテーション実施計画」を作成し、主催者（組織代表・技術代表）の承認を得る。
- ② EPプランに基づく関係部署との連携確認と、事前打合せの実施
 - ・EPプランに沿って関係各部署と連携についての確認を行ない、それぞれの部署の準備状況について総務と協働して進捗管理を行う。
- ③ 競技進行についての準備
 - ・事前に分刻み進行表を作成し、競技会で起こり得る可能性のある事象についてあらかじめ検討し、解決策を準備する。

④ 競技会開催中の役割

- ・競技会における進行・演出に関し総務から判断を委任され、EPプランと事前に策定した分刻み進行表に沿って競技会をコーディネートする。

(2) 観衆が満足する競技会演出

競技場へ足を運び観戦している観衆や、テレビを通じて観戦している観衆が満足し、競技者がベストパフォーマンスを披露出来る競技会にするために、特に留意すべき点は以下の通りである。

① 「常に何かが起こっている空間」の演出

- ・競技会ではトラック・フィールドで複数の種目が同時に進行するが、競技進行の状況によってはごく稀に「何も行われていない」状況が起こることがある。その様な状況は事前に策定する分刻み進行表である程度予測されるが、競技場で何も見るものがなく観衆が沈黙している事がないようにタイムテーブルを事前に調整し、各種イベントやプロモーションを計画することが必要である。また、事前の予想や計画に反してその様な状況になった場合には、臨機応変に対応することが求められる。

② 観衆にとって分かりやすい競技会の演出

- ・多種目が同時に展開する競技会において、観衆が注目すべき場面は刻一刻と変化する。その様な状況下、「今注目の種目は何か」を正確に把握して選び、アナウンスなどでガイドして注目させるという役割が求められる。注目種目がフィールド競技の場合には、トラック競技の進行を一時的に遅らせるという措置も選択する。

③ テレビ中継との連携

- ・テレビ中継が生放送（LIVE）行われている場合には、テレビ局のディレクターと連携し、中継が円滑に行えるように協働する。テレビ中継を通じて競技を見ている陸上ファンへのサービスにも配慮する。テレビ局とは事前に策定する分刻み進行表などで予め打合せを行っておくことで、円滑な進行と連携が可能になる。
- ・テレビ局側の意向を踏まえつつも、競技規則の順守、全体のコントロールはEPMが行うという役割分担の明確化が重要になる。

【付録1】第105回日本陸上競技選手権大会（2021年大阪）申合わせ事項

映像制作のプロが進行担当で入り、その意向に沿って作成されたアナウンスの基本方針

2021.5.26更新

第105回 日本陸上競技選手権大会 アナウンスの基本方針

ご存じのとおり、日本選手権は、陸上競技会の中で最も権威のある競技会です。

「ルールに忠実であること」という競技会運営は、小規模競技会と何ら変わりはありません。

一方で、「魅せる」競技会のスタイルを全国に発信する役割も備えています。

日本選手権では、映像や音響、全体をコントロールするプロが入り、審判アナウンサーと、協力し合って「魅せる」競技会の演出のために、いくつかの共通認識をもつことが必要となります。

今回の日本選手権でのアナウンスは、選手や審判に向けてのアナウンスではなく、観客に向けてのアナウンスだということを念頭に、独自の基本方針をまとめました。

どなたにも、普段のアナウンスで、知らないうちに癖になっている言い回しなどあるものです。この機会に、基本に戻り、シンプルな言葉で伝えることを意識していただければ幸いです。

万一、言い方が違ってしまっても(いつもの言い方をしてしまっても)、内容に誤りがないのなら、「失礼しました」や言い直しは不要です。

戸惑いもあるかと思いますが、ご理解、ご協力のほどお願いいたします。

- ① 「くん・さん」はつけず、選手紹介・描写では敬称略、競技以外では「選手」の使い分け。

例：橋岡優輝、日本大学が、5回目に記録を伸ばして8m15、トップに立ちました。

優勝した橋岡(優輝)選手のインタビューです。

- ② 種目名は「800m 競走」ではなく「800m」

- ③ 紹介・描写などでは「第」はつけず「2レーン」。メリハリを。

「組」には「第」をつけない。「予選第2組」ではなく、「予選2組」。

- ④ 紹介後の締め言葉を統一。

- ⑤ 言葉の重複を避ける。

例：風は追い風1.5メートルでした。→ 追い風1.5メートルでした。

よく耳にしますが「この時(の風は)」も言わない。

例：「そして・さて」など → 特に見どころ紹介で「そして」を連呼しない。

- ⑥ 『～をご覧ください。』は言わない。

結果発表の冒頭で「スクリーンをご覧ください」は言わない。

また「記録」「時間」は省略。

- ⑦ 「次の跳躍者」「次の投てき者」「今年の優勝者」言ってしまうがちです。

例：「次の跳躍は」「次の投げるのは」「昨年優勝した」

- ⑧ トラック種目の描写では、先頭選手の極度の連呼を避けたいものです。

- ⑨ トップ8の発表は名前・所属のみ、記録は1位と8位だけ。

- ⑩ プロの音響担当の方が、場面に応じた音楽や音をつけてくれます。スタジアムには、絶えず大きな音量の音楽が流れていますが、スプリント種目では、敢えて無音にします。

200m以下の競技はStartからフィニッシュまでしゃべらない。

「男子100mがスタートしました」などのような、見ればわかることを言う必要はなく、

「5レーンは桐生」のコメントも不要です。ここは「魅せる」ところ！と無言を通すことが演出となります。

なにも喋らないことを恐れず、沈黙の中でこそ際立つ、スパイクが地面をとらえる音、ハードルに触れる音などを私たちも堪能しましょう。

以下のように、コメントの基本を定めます。

トラック

・種目紹介/見どころ

『トラックでは（種目名）予選/準決勝/決勝 が行われます。

日本記録は●●。オリンピック参加標準記録は●●です。』

本人が出場する以外は名前や記録年は言わない

『予選/準決勝 は●組おこなわれ、各組●着までと●着以下上位記録●名が準決勝/決勝 へ進みます。』

上位選手から3名ほど紹介…状況により、紹介の人数が異なりますので、3人ほど準備しておいてください。

『(種目名) 予選/準決勝/決勝 は、まもなくスタートです。』

・予選/準決勝の選手紹介は

ファンファーレ → 『(種目名)、予選1組です。

1レーン(選手名・所属) ～ 9レーン(選手名・所属)

(種目名)、予選1組』

→ アタック → Start

・決勝の選手紹介は

ファンファーレ → 『トラックは(種目名) 決勝です。

1レーン(選手名・所属)！～ 9レーン(選手名・所属)

(種目名)、決勝！』 → アタック → Start

・スタート後

100m・200m・100mH・110mHはフィニッシュまでしゃべらない。

400m以上の競技で、スタート後、『予選●組』や『(種目名)はスタートしました』

などは言わない。スタートで飛び出した選手や資格記録の上位選手などに触れる。

・フィニッシュ後

ライブリザルトを読む（基本予選/準決勝は3着まで・決勝は8着まで）

『1着(選手名・所属)○秒○○、2着(選手名・所属)○秒○○、

3着(選手名・所属)○秒○○』

オフィシャルに変わったら

『結果 確定です。 ○風●●メートルでした。(風はありませんでした)。』

フィールド

・種目紹介/見どころ

『(場所・種目名)が行われます。

メインスタンドから見て右側/左側、A/Bゾーンでは…描写ではA/Bゾーンでよい

バックスタンド前では

メインスタンド前では

この種目の日本記録は●●。オリンピック参加標準記録は●●です。』

上位選手から3名ほど紹介状況により、紹介の人数が異なりますので、
3人ほど準備しておいてください。

『(種目名)は、まもなく開始されます。』

or 『(種目名)競技開始です』

・選手紹介

ファンファーレ → 『(種目名) 出場選手の紹介です。(選手名・所属)～(選手名・所属)、(種目名)競技開始です。』 → 旗上げ

・終了後

『(種目名)は(名前・所属)が何回目に●●を投げて/跳んで 優勝です。

おめでとうございます。 間をあける (競技名)、競技終了です。』

・3回目終了時

『(種目名)は3回の跳躍/投擲 が終了し、●●(記録)以上跳んだ/投げた

上位8名が4回目以降に進みます。

跳躍順(投擲順)に順に(選手名・所属)～(選手名・所属)、現在トップは(選手名・所属)

●●(記録)です。』

4回目以降の跳躍は

表彰

『メインスタンド前をご覧ください』は言わない

『ただいまより(競技名)の表彰を行います。プレゼンターは(肩書・名前)です。

第●●位 (選手名・所属) ●●(記録) …選手名は敬称略

第●●位 (選手名・所属) ●●(記録)

第●●位 (選手名・所属) ●●(記録)

以上で(競技名)の表彰を終わります。

おめでとうございます! 』

【付録 2】 女子円盤投げの種目紹介原稿（例）

昨年、日本記録をマークし、オリンピック参加標準記録を突破している北口榛花は、今シーズン、助走の改良に取り組みました。実戦の中で微調整を重ねる大胆なやり方で好記録へつなげています。

先日の全日本実業団では、大会記録の 63m45 で優勝。改良された助走で日本選手権二連覇を狙います。

今季ランキング 2 位の佐藤友香は、もともと混成競技の選手でしたが、去年はやり投に絞り、北口とともに世界選手権にも出場。先日の全日本実業団では、北口に続き第 2 位の成績を修めました。

先月このスタジアムで行われた日本インカレで学生チャンピオンに立った上田百寧の投てきにも注目です。

【付録 3】 箇条書き（メモ）スタイルの種目紹介原稿（例）

15:00 正面スタンドから見て左側 Bゾーン U20 女子棒高跳 決勝 NR 4m15

② 今井 葉月 イマイハヅキ 樹徳高 3m80 昨年群馬ベルドーム

④ 藤家 麻鈴 フジイエマベル 筑波大 3m80 昨年石川選手権

⑦ 小林 美月 コバヤシミツキ 明星学園高 3m80 4月八王子

16:55 U20 男子 1500m 決勝 NR 3.38.49

山林 レオ ヤマバヤシレオ 上武大 関東インカレ 資格 1 位 3.45.88

松本 颯真 マツモトソウマ 伊賀白鳳高 予選 1 位 3.48.91

18:20 U20 男子 100m 決勝 NR 10.01

5 田原 蓮 タハラレン 法政大 予選トップ 10.50PB

7 島田 開伸 シマダカイシン 早稲田大 予選 2 位 10.51

2 守 祐陽 モリユウヒ 市立船橋高 千葉高校総体 10.38

18:35 シニア男子 400mH 予選 3-2+2 NR 47.89 標準 48.90

3-7 黒川 和樹 クロカワカズキ 法政大 PB 48.68 テストイベント 1 位

1-5 山内 大夢 ヤマウチヒロム 早稲田大 PB 48.84 テストイベント 2 位

1-1 豊田 将樹 トヨダマサキ 富士通 PB 48.87 テストイベント 3 位

2-8 安部 孝駿 アベタカトシ 山田 HD PB 日本選手権 2 連覇中

世界陸上 4 回出場その他にも PB50 秒を切る選手が多数いる注目の種目

19:10 シニア男子 1500m 決勝 NR 3.37.05 標準 3.35.00

荒井 七海 アライナナミ Honda 3.37.05 NR 先月オレゴン州

館澤 亨次 タテザワリョウジ DeNA 昨年優勝 予選トップ 3.42.07

東海大学先輩後輩

19:35 シニア男子 400m 決勝 NR 44.78 標準 44.90
 4 佐藤 拳太郎 富士通 予選 1 位 46.11 テストイベント 1 位
 7 伊東 利来也 イトウリクヤ 三菱マテリアル 昨年優勝
 ファイナリスト全員が 46 秒台=接戦?
 オリンピック 1600m リレーメンバー選考においても重要なレース

20:15 シニア女子 100m 決勝 (ゲート) NR 11.21 標準 11.15
 4 兒玉 芽生 コダマメイ 福岡大 準決 1 位 11.46 昨年優勝
 5 壹岐あいこ イキアイコ 立命館大学 11.60 予選 11.59 PB
 6 石川優 イシカワユウ 青学大 11.48 今月学生個人選手権
 7 君嶋愛梨紗 キミシマアリサ 土木管理総合 11.51 予選 2 位

【付録 4】

ラップタイム換算表 (1)

400 m	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69
800 m	02'00	02'02	02'04	02'06	02'08	02'10	02'12	02'14	02'16	02'18
1000 m	02'30	02'32	02'35	02'38	02'40	02'43	02'45	02'48	02'50	02'53
1200 m	03'00	03'03	03'06	03'09	03'12	03'15	03'18	03'21	03'24	03'27
1600 m	04'00	04'04	04'08	04'12	04'16	04'20	04'24	04'28	04'32	04'36
2000 m	05'00	05'05	05'10	05'15	05'20	05'25	05'30	05'35	05'40	05'45
2400 m	06'00	06'06	06'12	06'18	06'24	06'30	06'36	06'42	06'48	06'54
2800 m	07'00	07'07	07'14	07'21	07'28	07'35	07'42	07'49	07'56	08'03
3000 m	07'30	07'37	07'45	07'53	08'00	08'08	08'15	08'23	08'30	08'38
3200 m	08'00	08'08	08'16	08'24	08'32	08'40	08'48	08'56	09'04	09'12
3600 m	09'00	09'09	09'18	09'27	09'36	09'45	09'54	10'03	10'12	10'21
4000 m	10'00	10'10	10'20	10'30	10'40	10'50	11'00	11'10	11'20	11'30
4400 m	11'00	11'11	11'22	11'33	11'44	11'55	12'06	12'17	12'28	12'39
4800 m	12'00	12'12	12'24	12'36	12'48	13'00	13'12	13'24	13'36	13'48
5000 m	12'30	12'43	12'55	13'08	13'20	13'33	13'45	13'58	14'10	14'23
5200 m				13'39	13'52	14'05	14'18	14'31	14'44	14'57
5600 m				14'42	14'56	15'10	15'24	15'38	15'52	16'06
6000 m				15'45	16'00	16'15	16'30	16'45	17'00	17'15
6400 m				16'48	17'04	17'20	17'36	17'52	18'08	18'24
6800 m				17'51	18'08	18'25	18'42	18'59	19'16	19'33
7000 m				18'23	18'40	18'58	19'15	19'33	19'50	20'08
7200 m				18'54	19'12	19'30	19'48	20'06	20'24	20'42
7600 m				19'57	20'16	20'35	20'54	21'13	21'32	21'51
8000 m				21'00	21'20	21'40	22'00	22'20	22'40	23'00
8400 m				22'03	22'24	22'45	23'06	23'27	23'48	24'09
8800 m				23'06	23'28	23'50	24'12	24'34	24'56	25'18
9000 m				23'38	24'00	24'23	24'45	25'08	25'30	25'53
9200 m				24'09	24'32	24'55	25'18	25'41	26'04	26'27
9600 m				25'12	25'36	26'00	26'24	26'48	27'12	27'36
10000 m				26'15	26'40	27'05	27'30	27'55	28'20	28'45

400 m	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79
800 m	02'20	02'22	02'24	02'26	02'28	02'30	02'32	02'34	02'36	02'38
1000 m	02'55	02'58	03'00	03'03	03'05	03'08	03'10	03'13	03'15	03'18
1200 m	03'30	03'33	03'36	03'39	03'42	03'45	03'48	03'51	03'54	03'57
1600 m	04'40	04'44	04'48	04'52	04'56	05'00	05'04	05'08	05'12	05'16
2000 m	05'50	05'55	06'00	06'05	06'10	06'15	06'20	06'25	06'30	06'35
2400 m	07'00	07'06	07'12	07'18	07'24	07'30	07'36	07'42	07'48	07'54
2800 m	08'10	08'17	08'24	08'31	08'38	08'45	08'52	08'59	09'06	09'13
3000 m	08'45	08'53	09'00	09'08	09'15	09'23	09'30	09'38	09'45	09'53
3200 m	09'20	09'28	09'36	09'44	09'52	10'00	10'08	10'16	10'24	10'32
3600 m	10'30	10'39	10'48	10'57	11'06	11'15	11'24	11'33	11'42	11'51
4000 m	11'40	11'50	12'00	12'10	12'20	12'30	12'40	12'50	13'00	13'10
4400 m	12'50	13'01	13'12	13'23	13'34	13'45	13'56	14'07	14'18	14'29
4800 m	14'00	14'12	14'24	14'36	14'48	15'00	15'12	15'24	15'36	15'48
5000 m	14'35	14'48	15'00	15'13	15'25	15'38	15'50	16'03	16'15	16'28
5200 m	15'10	15'23	15'36	15'49	16'02	16'15	16'28	16'41	16'54	17'07
5600 m	16'20	16'34	16'48	17'02	17'16	17'30	17'44	17'58	18'12	18'26
6000 m	17'30	17'45	18'00	18'15	18'30	18'45	19'00	19'15	19'30	19'45
6400 m	18'40	18'56	19'12	19'28	19'44	20'00	20'16	20'32	20'48	21'04
6800 m	19'50	20'07	20'24	20'41	20'58	21'15	21'32	21'49	22'06	22'23
7000 m	20'25	20'43	21'00	21'18	21'35	21'53	22'10	22'28	22'45	23'03
7200 m	21'00	21'18	21'36	21'54	22'12	22'30	22'48	23'06	23'24	23'42
7600 m	22'10	22'29	22'48	23'07	23'26	23'45	24'04	24'23	24'42	25'01
8000 m	23'20	23'40	24'00	24'20	24'40	25'00	25'20	25'40	26'00	26'20
8400 m	24'30	24'51	25'12	25'33	25'54	26'15	26'36	26'57	27'18	27'39
8800 m	25'40	26'02	26'24	26'46	27'08	27'30	27'52	28'14	28'36	28'58
9000 m	26'15	26'38	27'00	27'23	27'45	28'08	28'30	28'53	29'15	29'38
9200 m	26'50	27'13	27'36	27'59	28'22	28'45	29'08	29'31	29'54	30'17
9600 m	28'00	28'24	28'48	29'12	29'36	30'00	30'24	30'48	31'12	31'36
10000 m	29'10	29'35	30'00	30'25	30'50	31'15	31'40	32'05	32'30	32'55

ラップタイム換算表 (2)

	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89
400 m										
800 m	02'40	02'42	02'44	02'46	02'48	02'50	02'52	02'54	02'56	02'58
1000 m	03'20	03'23	03'25	03'28	03'30	03'33	03'35	03'38	03'40	03'42
1200 m	04'00	04'03	04'06	04'09	04'12	04'15	04'18	04'21	04'24	04'27
1600 m	05'20	05'24	05'28	05'32	05'36	05'40	05'44	05'48	05'52	05'56
2000 m	06'40	06'45	06'50	06'55	07'00	07'05	07'10	07'15	07'20	07'25
2400 m	08'00	08'06	08'12	08'18	08'24	08'30	08'36	08'42	08'48	08'54
2800 m	09'20	09'27	09'34	09'41	09'48	09'55	10'02	10'09	10'16	10'23
3000 m	10'00	10'08	10'15	10'23	10'30	10'38	10'45	10'53	11'00	11'07
3200 m	10'40	10'48	10'56	11'04	11'12	11'20	11'28	11'36	11'44	11'52
3600 m	12'00	12'09	12'18	12'27	12'36	12'45	12'54	13'03	13'12	13'21
4000 m	13'20	13'30	13'40	13'50	14'00	14'10	14'20	14'30	14'40	14'50
4400 m	14'40	14'51	15'02	15'13	15'24	15'35	15'46	15'57	16'08	16'19
4800 m	16'00	16'12	16'24	16'36	16'48	17'00	17'12	17'24	17'36	17'48
5000 m	16'40	16'53	17'05	17'18	17'30	17'43	17'55	18'08	18'20	18'32
5200 m	17'20	17'33	17'46	17'59	18'12	18'25	18'38	18'51	19'04	19'17
5600 m	18'40	18'54	19'08	19'22	19'36	19'50	20'04	20'18	20'32	20'46
6000 m	20'00	20'15	20'30	20'45	21'00	21'15	21'30	21'45	22'00	22'15
6400 m	21'20	21'36	21'52	22'08	22'24	22'40	22'56	23'12	23'28	23'44
6800 m	22'40	22'57	23'14	23'31	23'48	24'05	24'22	24'39	24'56	25'13
7000 m	23'20	23'38	23'55	24'13	24'30	24'48	25'05	25'23	25'40	25'57
7200 m	24'00	24'18	24'36	24'54	25'12	25'30	25'48	26'06	26'24	26'42
7600 m	25'20	25'39	25'58	26'17	26'36	26'55	27'14	27'33	27'52	28'11
8000 m	26'40	27'00	27'20	27'40	28'00	28'20	28'40	29'00	29'20	29'40
8400 m	28'00	28'21	28'42	29'03	29'24	29'45	30'06	30'27	30'48	31'09
8800 m	29'20	29'42	30'04	30'26	30'48	31'10	31'32	31'54	32'16	32'38
9000 m	30'00	30'23	30'45	31'08	31'30	31'53	32'15	32'38	33'00	33'22
9200 m	30'40	31'03	31'26	31'49	32'12	32'35	32'58	33'21	33'44	34'07
9600 m	32'00	32'24	32'48	33'12	33'36	34'00	34'24	34'48	35'12	35'36
10000 m	33'20	33'45	34'10	34'35	35'00	35'25	35'50	36'15	36'40	37'05

	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99
400 m										
800 m	03'00	03'02	03'04	03'06	03'08	03'10	03'12	03'14	03'16	03'18
1000 m	03'45	03'48	03'50	03'53	03'55	03'58	04'00	04'03	04'05	04'08
1200 m	04'30	04'33	04'36	04'39	04'42	04'45	04'48	04'51	04'54	04'57
1600 m	06'00	06'04	06'08	06'12	06'16	06'20	06'24	06'28	06'32	06'36
2000 m	07'30	07'35	07'40	07'45	07'50	07'55	08'00	08'05	08'10	08'15
2400 m	09'00	09'06	09'12	09'18	09'24	09'30	09'36	09'42	09'48	09'54
2800 m	10'30	10'37	10'44	10'51	10'58	11'05	11'12	11'19	11'26	11'33
3000 m	11'15	11'22	11'30	11'37	11'45	11'52	12'00	12'07	12'15	12'23
3200 m	12'00	12'08	12'16	12'24	12'32	12'40	12'48	12'56	13'04	13'12
3600 m	13'30	13'39	13'48	13'57	14'06	14'15	14'24	14'33	14'42	14'51
4000 m	15'00	15'10	15'20	15'30	15'40	15'50	16'00	16'10	16'20	16'30
4400 m	16'30	16'41	16'52	17'03	17'14	17'25	17'36	17'47	17'58	18'09
4800 m	18'00	18'12	18'24	18'36	18'48	19'00	19'12	19'24	19'36	19'48
5000 m	18'45	18'58	19'10	19'22	19'35	19'48	20'00	20'12	20'25	20'37
5200 m	19'30	19'43	19'56	20'09	20'22	20'35	20'48	21'01	21'14	21'27
5600 m	21'00	21'14	21'28	21'42	21'56	22'10	22'24	22'38	22'52	23'06
6000 m	22'30	22'45	23'00	23'15	23'30	23'45	24'00	24'15	24'30	24'45
6400 m	24'00	24'16	24'32	24'48	25'04	25'20	25'36	25'52	26'08	26'24
6800 m	25'30	25'47	26'04	26'21	26'38	26'55	27'12	27'29	27'46	28'03
7000 m	26'15	26'33	26'50	27'07	27'25	27'43	28'00	28'17	28'35	28'53
7200 m	27'00	27'18	27'36	27'54	28'12	28'30	28'48	29'06	29'24	29'42
7600 m	28'30	28'49	29'08	29'27	29'46	30'05	30'24	30'43	31'02	31'21
8000 m	30'00	30'20	30'40	31'00	31'20	31'40	32'00	32'20	32'40	33'00
8400 m	31'30	31'51	32'12	32'33	32'54	33'15	33'36	33'57	34'18	34'39
8800 m	33'00	33'22	33'44	34'06	34'28	34'50	35'12	35'34	35'56	36'18
9000 m	33'45	34'07	34'30	34'53	35'15	35'37	36'00	36'22	36'45	37'07
9200 m	34'30	34'53	35'16	35'39	36'02	36'25	36'48	37'11	37'34	37'57
9600 m	36'00	36'24	36'48	37'12	37'36	38'00	38'24	38'48	39'12	39'36
10000 m	37'30	37'55	38'20	38'45	39'10	39'35	40'00	40'25	40'50	41'15

J A A F

陸上競技アナウンサーのしおり（2021年度版）

[\(https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/\)](https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/)

2021年7月発行

編集・発行 公益財団法人 日本陸上競技連盟 競技運営委員会

〒160-0013

東京都新宿区霞ヶ丘町4-2

JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階

TEL 050-1746-8410